

令和5年度

事業実績報告書

学校法人 佐保会学園

奈良佐保短期大学

附属生駒幼稚園

認定こども園附属河内長野幼稚園

附属倉敷幼稚園

# 令和5年度に係る事業の実績報告

奈良市鹿野園町 806  
学校法人 佐保会学園

<b>I 法人の概要等</b>	3
1. 法人の目的	3
2. 既設校の内容	3
3. 法人等の沿革	3
4. 歴代理事長、学長及び園長	5
(1) 理事長	5
(2) 学長	5
(3) 園長	6
5. 奈良佐保短期大学名誉教授	6
6. 運営・組織機構（主たる業務・分掌を含む）	6 (56)
7. 役員	6
8. 理事会、評議員会の開催状況	7
(1) 理事会	7
(令和4年度)	7
(令和5年度)	7
(2) 評議員会	9
(令和4年度)	9
(令和5年度)	9
9. 役職員	10
(1) 法人本部	10
(2) 奈良佐保短期大学	10
(3) 附属幼稚園	11
10. 職員数	11
・教員等の現員	11
11. 附属図書館	12
(1) 図書及び雑誌	12
(2) サービス状況	12
12. 外部資金	12
科学研究費補助金	12
<b>II 財務の概要</b>	13
1. 監事の監査状況と監査内容	13
2. 公認会計士の監査状況	13
3. 貸借対照表の要約	14
4. 財産目録の要約	14
5. 資金収支・事業活動収支の要約	15
(1) 資金収支決算	15
(2) 事業活動収支決算	16
(3) 教育研究経費比率	17
6. 土地建物	17

<b>Ⅲ 事業の概要</b> .....	17
1・奈良佐保短期大学 .....	17
2・附属生駒幼稚園 .....	47
3・認定こども園附属河内長野幼稚園 .....	51
4・附属倉敷幼稚園 .....	53

## 学校法人 佐保会学園 令和5年度に係る事業の実績報告

### I 法人の概要等

#### 1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、教養高く、かつ、専門的、職業的能力を有する優れた人材を育成することを目的とする。

#### 2. 既設校の内容

法人の名称：学校法人佐保会学園		事務所の所在地：奈良市鹿野園町806		
学校名	学科・課程名（修業年限）	開設年度	入学定員 (人)	収容定員 (人)
奈良佐保短期大学	生活未来科（2年） 生活福祉コース 食物栄養コース ビジネスキャリアコース	平21	80	160
	地域こども学科（2年） こども教育コース こども保育コース	平22	100	200
	日本語教育別科（1年）	平22	20	20
附属生駒幼稚園	} 5歳児（1年保育） 4歳児（2年保育） 3歳児（3年保育）	昭52		220
認定こども園		昭49		60
附属河内長野幼稚園		昭51		115
附属倉敷幼稚園				

所在地	奈良佐保短期大学	奈良市鹿野園町 806
	附属生駒幼稚園	生駒市鹿ノ台南2-12
	認定こども園	
	附属河内長野幼稚園	河内長野市大矢船中町10-1
	附属倉敷幼稚園	倉敷市徳芳869-116

#### 3. 法人等の沿革

昭和6年	4月1日	奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大学）同窓会佐保会によって各種学校佐保女学院（奈良佐保短期大学の前身）が開設される
昭和40年	1月25日	学校法人佐保会学園設立の認可を受ける
昭和40年	1月25日	佐保女学院短期大学設置の認可を受ける
昭和40年	4月1日	同短期大学開設（家政科入学定員100名）する
昭和40年	12月3日	1号館 竣工
昭和42年	3月21日	2号館 竣工
昭和42年	3月23日	栄養士養成課程（入学定員50名）設置の認可を受ける
昭和42年	4月1日	家政科を家政専攻（入学定員100名）と食物栄養専攻（入学定員50名）に変更する
昭和42年	4月1日	栄養士養成課程を開設する
昭和43年	7月29日	佐保女学院短期大学を奈良佐保女学院短期大学と校名変更の認可を受ける

昭和48年	2月	4日	初等教育学科の設置の認可を受ける（入学定員50名）
昭和48年	2月	4日	家政科を家政学科と学科名の変更の認可を受ける
昭和48年	2月	4日	家政学科の入学定員を家政学専攻50名、食物栄養専攻50名計100名に変更の認可を受ける
昭和48年	3月	31日	3号館、4号館 竣工
昭和48年	4月	1日	初等教育学科（入学定員50名）を開設する
昭和49年	3月	8日	学校法人佐保学園河内長野佐保幼稚園設置認可を受ける（大阪府）
昭和49年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員120名）
昭和51年	2月	12日	初等教育学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	2月	12日	家政学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	3月	25日	5号館 竣工
昭和51年	12月	11日	学校法人佐保学園倉敷佐保幼稚園設置認可を受ける（岡山県）
昭和51年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員80名）
昭和52年	4月	12日	学校法人佐保学園生駒佐保幼稚園設置認可を受ける（奈良県）
昭和52年	9月	1日	同幼稚園開設（入園定員200名）
昭和54年	4月	30日	体育館 竣工
昭和58年	3月	31日	奈良県認可の学校法人佐保学園に河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園を吸収合併の認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名に、初等教育学科の入学定員を150名に増加認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名の臨時増員の認可を受ける（期間 昭和61年4月1日～平成12年3月31日）
昭和63年	1月	29日	家政学科を生活科学科と学科名を変更する 家政専攻を生活科学専攻と専攻名の変更の認可を受ける
平成 2年	3月	31日	6号館 竣工
平成 4年	8月	31日	学校法人佐保会学園が学校法人佐保学園を合併する認可を受ける
平成 5年	4月	1日	生駒佐保幼稚園、河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園をそれぞれ奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同附属河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園とする
平成11年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を分離し、生活福祉専攻（介護福祉養成施設等指定）を設置する生活科学専攻の恒常的入学定員を40名減じ、生活福祉専攻の入学定員を60名とする
平成12年	3月	31日	生活科学科生活科学専攻の入学定員100名の臨時増員を廃止減員する
平成13年	4月	1日	奈良佐保女学院短期大学を奈良佐保短期大学に、奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園を奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園に名称変更を行うとともに、奈良佐保短期大学にあっては受入学生を男女共学とする
平成13年	4月	1日	初等教育学科を幼児教育科と学科名を変更する
平成14年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を廃止する
平成15年	4月	1日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を設置する
平成16年	11月	8日	自己点検評価室を設置する
平成17年	4月	1日	情報メディアセンターを設置する
平成19年	9月	28日	生活科学科生活福祉専攻入学定員を10名減じ50名とし、幼児教育科入学定員を130名に増加認可（平成20年度～）を受ける
平成19年	10月	17日	附属倉敷幼稚園の入園定員を25名増し105名に増加認可（平成20年度～）を受ける

平成20年	4月	1日	生涯学習教育センターを設置する
平成21年	4月	1日	生活科学科を生活未来科と学科名を変更する 生活未来科は専攻課程を廃止し、入学定員を100名とする。
平成22年	3月	10日	中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書締結
平成22年	4月	1日	幼児教育科を地域こども学科と学科名を変更し、入学定員を100名とする 日本語教育別科（定員20名）を設置する
平成23年	3月	31日	7号館 竣工
平成23年	4月	1日	キャリア支援センターを設置する
平成23年	9月		中華人民共和国大連大学との交流に関する協定書締結
平成24年	4月	1日	地域共生センターを設置する（生涯学習教育センターを廃止する）
平成27年	4月	1日	地域・国際連携センターを設置する（地域共生センターを廃止する。） 附属倉敷幼稚園の入園定員を10名増し115名に増加認可を受ける 附属河内長野幼稚園を認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園（利用定員60名） としての認可を受ける
平成28年	3月	31日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を廃止する
令和2年	4月	1日	生活未来科入学定員を20名減じ80名とする

#### 4. 歴代理事長、学長及び園長

##### (1) 理事長

	長谷川 千 鶴	昭和40年	4月	1日	～平成13年	3月	31日
	梶 田 武 俊	平成13年	4月	1日	～平成17年	7月	31日
	丹 羽 雅 子	平成17年	8月	1日	～平成18年	11月	11日
(代行)	生 駒 節 子	平成18年	11月	12日	～平成18年	12月	16日
	奥 村 晶 子	平成18年	12月	17日	～平成25年	7月	31日
(代行)	大 石 正	平成19年	10月	7日	～平成19年	10月	22日
(代行)	馬 越 かよ子	平成25年	8月	1日	～平成25年	8月	10日
	榎 和 子	平成25年	8月	11日	～平成29年	7月	31日
	馬 越 かよ子	平成29年	8月	1日	～（現在に至る）		

##### (2) 学長

###### (昭和40年4月から平成13年3月まで奈良佐保女学院短期大学)

	波多腰 ヤ ス	昭和40年	4月	1日	～昭和47年	6月	8日
(代行)	近 末 貢	昭和47年	6月	8日	～昭和48年	7月	31日
	宮 本 富 美	昭和48年	8月	1日	～平成6年	6月	30日
	菅 沼 美 子	平成6年	7月	1日	～平成12年	3月	31日
(代行)	梶 田 武 俊	平成11年	10月	1日	～平成12年	3月	31日
	梶 田 武 俊	平成12年	4月	1日	～平成14年	3月	31日

###### (平成13年4月から奈良佐保短期大学)

	梶 田 武 俊	平成14年	4月	1日	～平成18年	3月	31日
	大 石 正	平成18年	4月	1日	～平成24年	3月	31日
	馬 越 かよ子	平成24年	4月	1日	～令和3年	3月	31日
	池 内 ますみ	令和3年	4月	1日	～（現在に至る）		

### (3) 園長

#### 附属生駒幼稚園

(昭和52年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 生駒佐保幼稚園)

有馬 タツエ 昭和51年 4月 1日～平成 4年 3月31日  
藤井 智加子 平成 4年 4月 1日～平成 5年 3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園)

藤井 智加子 平成 5年 4月 1日～平成24年 3月31日  
奥畑 栄一 平成24年 4月 1日～平成27年 3月31日  
片岡 三和 平成27年 4月 1日～令和 3年 3月31日  
福田 幹子 令和 3年 4月 1日～(現在に至る)

#### 認定こども園附属河内長野幼稚園

(昭和49年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 河内長野佐保幼稚園)

村上 尉代 昭和49年 4月 1日～昭和50年 3月31日  
今市 良子 昭和50年 4月 1日～平成 5年3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

今市 良子 平成 5年 4月 1日～平成14年3月31日  
中村 裕子 平成14年 4月 1日～平成27年3月31日

(平成27年4月から認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

中村 裕子 平成27年 4月 1日～令和 4年3月31日  
川崎 隆史 令和 4年 4月 1日～(現在に至る)

#### 附属倉敷幼稚園

(昭和51年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 倉敷佐保幼稚園)

中村 淑 昭和51年 4月 1日～昭和53年 9月14日  
長坂 淳子 昭和53年 9月15日～昭和61年 8月31日  
本田 慧 昭和61年 9月 1日～平成 5年 3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園)

本田 慧 平成 5年 4月 1日～平成 7年 8月31日  
竹内 一二美 平成 7年 9月 1日～平成10年 3月31日  
本田 慧 平成10年 4月 1日～平成15年 7月31日  
橋爪 操 平成15年 8月 1日～(現在に至る)

### 5. 奈良佐保短期大学名誉教授

菅沼美子 柴利秋 戸口 勉 松井静子 梶田武俊 南園節教  
大石 正 矢和多多姫子 中村妙子 馬越かよ子 宮川久美

### 6. 運営・組織機構 (主たる業務・分掌を含む)

(別記 56頁)

### 7. 役員

(令和5年5月1日現在)

理事長 馬越 かよ子  
理事 池内 ますみ 倉田 清 栗岡 隆顕 黒川 丈朗 島村 知歩  
野口 哲子 疋田 洋子 平井 タカネ 本田 元子 前迫 ゆり  
馬越 かよ子 松尾 欣枝

監事	久米健次	山川明子				
評議員	池内ますみ	岡田伸子	川崎和子	川崎隆史	北口照美	
	倉田清	栗岡隆顕	久留島涼子	黒川丈朗	西藤栄子	
	島村知歩	高橋世知子	柘植美紀子	野口哲子	橋爪操	
	疋田洋子	平井タカネ	福田幹子	福田満代	本田元子	
	前迫ゆり	馬越かよ子	松尾欣枝	宮城智子	森本伊津子	

## 8. 理事会、評議員会の開催状況

### (1) 理事会

開催日	審議事項
(令和4年度)	
令和4年5月28日	令和3年度(2021年度)事業実績報告について 令和3年度(2021年度)決算について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園園児用トイレ及び洗面所の改修工事について
令和4年7月23日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園トイレ等改修工事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園新園舎木製サッシ改修工事について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について
令和4年9月17日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学ガバナンス・コード遵守状況について
令和4年10月29日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学校舎の耐震化完了計画について
令和4年12月17日	奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学学長等就業規則の制定について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る処遇改善等加算Ⅲの支給について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
令和5年2月25日	令和6年度 奈良佐保短期大学地域こども学科入学定員の変更について 令和6年度 奈良佐保短期大学日本語教育別科の募集見合わせについて 令和4年度補正収支予算について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園則の一部改正について 奈良佐保短期大学クラウドサーバーの導入について
令和5年3月19日	令和5年度事業計画について 令和5年度当初予算について 学校法人佐保会学園中長期計画について 理事及び評議員の交代について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学社会福祉士養成施設の廃止について
(令和5年度)	
令和5年5月27日	令和4年度事業実績報告について 令和4年度決算について

	学校法人佐保会学園法人本部長の選任について 評議員の交代について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園資産運用について 奈良佐保短期大学学長選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長選考について 評議員の交代について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園の耐震診断について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について
令和5年7月22日	
	奈良佐保短期大学ガバナンス・コード遵守状況について 奈良佐保短期大学授業料等特別免除規程の一部改正について 奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について
令和5年9月17日	
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園利用定員(1号)の変更について 学校法人佐保会学園・奈良佐保短期大学の現状と今後の運営について 奈良佐保短期大学 令和7年度学生募集について 奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について
令和5年10月28日	
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園利用定員の変更及び園則(運営規定)の一部改正について 奈良佐保短期大学 令和7年度学生募集停止について 奈良佐保短期大学生活未来科の令和7年度に向けた見直しについて 学校法人佐保会学園経営改善計画の改訂について 奈良佐保短期大学ホームページリニューアルについて 奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園児送迎用スペース設置工事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長候補者の選考について 奈良佐保短期大学教員人事について
令和5年11月26日	
	学校法人佐保会学園監事の交代について 奈良佐保短期大学学長候補者の選考について 令和5年度補正収支予算について 生駒市からの市立幼稚園の運営打診について 奈良佐保短期大学附属幼稚園の給与改定について 奈良佐保短期大学教員人事について
令和5年12月23日	
	令和6年度事業計画について 令和6年度当初予算について 私立学校法改正に伴う学校法人佐保会学園寄付行為改正案について 学校法人佐保会学園寄付行為の一部改正について 生駒市からの市立幼稚園の運営打診について 評議員の交代について 奈良佐保短期大学教員人事について
令和6年2月17日	
令和6年3月16日	

## (2) 評議員会

開催日	諮問事項
(令和4年度)	
令和4年5月28日	令和3年度(2021年度)事業実績報告について 令和3年度(2021年度)決算について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園園児用トイレ及び洗面所の改修工事について
令和4年7月23日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園トイレ等改修工事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園新園舎木製サッシ改修工事について
令和4年9月17日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学ガバナンス・コード遵守状況について
令和4年10月29日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学校舎の耐震化完了計画について
令和4年12月17日	奈良佐保短期大学学長等就業規則の制定について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る処遇改善等加算Ⅲの支給について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
令和5年2月25日	令和6年度奈良佐保短期大学地域こども学科入学定員の変更について 令和6年度奈良佐保短期大学日本語教育別科の募集見合わせについて 令和4年度補正収支予算について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園則の一部改正について
令和5年3月19日	奈良佐保短期大学クラウドサーバーの導入について 令和5年度事業計画について 令和5年度当初予算について 学校法人佐保会学園中長期計画について 理事及び評議員の交代について 奈良佐保短期大学社会福祉士養成施設の廃止について
(令和5年度)	
令和5年5月27日	令和4年度事業実績報告について 令和4年度決算について 評議員の交代について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について その他(学校法人佐保会学園資産運用について)
令和5年7月22日	奈良佐保短期大学学長選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長選考について 評議員の交代について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園の耐震診断について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について
令和5年10月28日	奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園利用定員(1号)の変更について 学校法人佐保会学園・奈良佐保短期大学の現状と今後の運営について

令和5年11月26日	奈良佐保短期大学 令和7年度学生募集について 奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園利用定員の変更及び園則 (運営規定)の一部改正について
令和5年12月23日	奈良佐保短期大学 令和7年度学生募集停止について 奈良佐保短期大学生活未来科の令和7年度に向けた見直しについて 学校法人佐保会学園経営改善計画の改訂について 奈良佐保短期大学ホームページリニューアルについて 奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園児送迎用スペース設置工事について
令和6年2月17日	学校法人佐保会学園監事の交代について 令和5年度補正収支予算について 生駒市からの市立幼稚園の運営打診について 奈良佐保短期大学附属幼稚園の給与改定について
令和6年3月16日	令和6年度事業計画について 令和6年度当初予算について 私立学校法改正に伴う学校法人佐保会学園寄付行為改正案について 学校法人佐保会学園寄付行為の一部改正について 生駒市からの市立幼稚園の運営打診について 評議員の交代について

## 9. 役職員

(令和5年5月1日現在)

### (1) 法人本部

理事長	馬 越 かよ子
法人本部長	倉 田 清
事務室長	倉 田 清

### (2) 奈良佐保短期大学

学 長	池 内 ますみ
副学長	前 迫 ゆり
副学長	黒 川 丈 朗
生活未来科長	島 村 知 歩
生活福祉コース長	武 田 千 幸
食物栄養コース長	飯 田 晃 朝
ビジネス・キャリアコース長	吉 村 司
地域こども学科長	前 迫 ゆり
こども保育コース長	生 駒 英 法
こども教育コース長	樹 下 堅
日本語教育別科長 (併)	武 田 千 幸
事 務 局 長	倉 田 清
総 務 部 長	藤 本 友 宏
教育支援センター長 (併)	森 永 夕 美
副センター長	江 本 友 規 子
副センター長	菅 田 知 栄

入試・広報センター長	屋形剛久
副センター長	杉原麻起
学生・キャリア支援センター長(併)	上田利博
副センター長	高屋有加
副センター長	荒川隆
附属図書館長(併)	畑野裕子
情報メディアセンター長	川崎敬二
IR推進室長(併)	中田奈月
地域・国際連携センター長(併)	杉原麻起
副センター長(併)	屋形剛久
自己点検評価室長(併)	中田奈月
副室長(併)	畑野裕子

### (3) 附属幼稚園

生駒幼稚園長	福田幹子
主任	貞佳子
副主任	赤枝幸恵
認定こども園河内長野幼稚園長	川崎隆史
副園長	中野朝美
倉敷幼稚園長	橋爪操
主任	山地麻美

## 10. 職員数

### ・教員等の現員

(各年5月1日現在) 単位：人

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考
<b>短期大学</b>	<b>44 (50)</b>	<b>49 (49)</b>	<b>47 (43)</b>	<b>43 (45)</b>	<b>44 (39)</b>	
学長	1	1	1	1	1	
副学長	1	1	1	1	2	
教授	12	10	9	8	10	
准教授	1	4	4	6	4	
講師	9	12	10	7	8	
助教・助手	4	4	4	3	3	
その他の職員	16	17	18	17	16	
<b>幼稚園</b>	<b>31 (9)</b>	<b>34 (10)</b>	<b>35 (10)</b>	<b>34 (11)</b>	<b>33 (12)</b>	
生駒幼稚園	15 (3)	15 (4)	16 (4)	15 (5)	14 (6)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	13 (3)	13 (4)	14 (4)	13 (5)	12 (6)	
その他の職員	1	1	1	1	1	
河内長野幼稚園	9 (3)	9 (3)	9 (3)	10 (2)	10 (2)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	8 (3)	8 (3)	8 (3)	9 (2)	9 (2)	
その他の職員	0	0	0	0	0	

倉敷幼稚園	7 (3)	10 (3)	10 (3)	9 (4)	9 (4)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	5 (3)	7 (3)	7 (3)	6 (4)	6 (4)	
その他の職員	1	2	2	2	2	

注：( ) 内は非常勤を示す

## 11. 附属図書館

### (1) 図書及び雑誌

(令和5年度末現在)

内国書	外国書	計	備考
55,798 冊	1,543 冊	57,341 冊	

### (2) サービス状況

#### 入館者数・貸し出し者数・冊数

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入館者数	15,816 人	10,351 人	12,486 人	14,312 人	11,623 人
貸し出し者数	1,689 人	1,477 人	1,427 人	1,362 人	1,270 人
貸し出し冊数	4,804 冊	4,323 冊	4,228 冊	3,589 冊	3,226 冊

#### 文献複写件数

##### 学内・学外からの受付件数

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学内からの受付	292 件	83 件	70 件	36 件	192 件
学外からの受付	1 件	2 件	4 件	1 件	1 件
外部へ依頼	7 件	4 件	12 件	16 件	20 件

#### 図書館間相互貸借

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
貸出	1 件	2 件	0 件	2 件	0 件
借受	3 件	2 件	1 件	0 件	3 件

## 12. 外部資金

### 科学研究費補助金

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基盤研究	— 件	1 件	— 件	— 件	2 件
(C)	— 円	1,700,000 円	— 円	— 円	3,061,462 円
若手研究	1 件	1 件	— 件	— 件	— 件
(B)	800,000 円	900,000 円	— 円	— 円	— 円

## II 財務の概要

### 1. 監事の監査状況と監査内容

令和4年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和5年5月19日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和5年5月19日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

令和5年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和6年5月23日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和6年5月23日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

### 2. 公認会計士の監査状況

4年	2月24日・25日	期中監査（幼稚園監査を含む）
〃	4月7日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃	5月18日～20日	決算監査
〃	5月26日・27日	決算監査
〃	9月5日・6日	監査計画・期中監査
〃	12月1日・2日	期中監査
5年	2月21日・22日	期中監査（幼稚園監査を含む）
〃	4月5日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃	5月17日～19日	決算監査
〃	5月25日・26日	決算監査
〃	9月5日・6日	監査計画・期中監査
〃	12月5日・6日	期中監査
6年	2月19日・20日	期中監査（幼稚園監査を含む）
〃	3月11日・12日	期中監査（幼稚園監査を含む）
〃	4月3日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃	5月21日～23日	決算監査

### 3. 貸借対照表の要約

資産の部

単位円

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	2,037,561,889	2,002,491,955	1,782,464,745	1,736,897,782
有形固定資産	1,832,813,381	1,797,743,447	1,677,716,237	1,632,149,274
その他の固定資産	204,748,508	204,748,508	4,748,508	4,748,508
流動資産	1,084,104,029	1,023,640,113	1,113,476,153	1,058,584,404
資産の部合計	3,121,665,918	3,026,132,068	2,895,940,898	2,795,482,186

### 4. 財産目録の要約

単位円

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
資産総額	3,121,665,918	3,026,132,068	2,895,940,898	2,795,482,186
基本財産	2,037,561,889	2,002,491,955	1,782,464,745	1,736,897,782
運用財産	1,084,104,029	1,023,640,113	1,113,476,153	1,058,584,404
負債総額	305,948,625	271,245,623	248,374,313	230,835,199
正味財産	2,815,717,293	2,754,886,445	2,647,566,585	2,564,646,987
資 産				
基本財産				
(イ)土地	917,362,439	917,329,677	834,383,143	831,527,763
(ロ)建物	714,000,152	681,703,073	653,360,851	615,512,913
建物	624,172,372	594,380,915	565,135,425	535,902,931
建物付属設備	78,403,277	70,731,098	67,019,608	51,794,422
構築物	11,424,503	16,591,060	21,205,818	27,815,560
(ハ)図書	165,237,407	160,497,281	158,475,386	158,025,713
(ニ)教具、校具、備品 及び標本	35,159,431	37,407,456	30,938,883	26,772,897
(ホ)その他の固定資産	204,748,508	204,748,508	104,748,508	104,748,508
運用資産				
(イ)預金、現金	978,237,897	915,798,551	1,030,970,075	980,213,837
預金	977,418,398	915,088,138	1,030,186,815	979,705,040
現金	819,499	710,413	783,260	508,797
(ロ)積立金	0	0	0	0
(ハ)不動産	0	0	0	0
(ニ)貯蔵品	0	0	0	0
(ホ)未収入金	93,887,729	107,698,301	80,740,317	76,846,586
(ハ)前払金	11,978,403	143,261	1,765,761	1,523,981
負債				
固定負債				
(イ)退職引当金	177,316,346	173,110,160	166,985,871	160,337,773
(ロ)長期未払金	13,177,316	6,324,596	1,317,380	0
流動負債	115,454,963	91,810,867	80,071,062	70,497,426
(イ)未払金	26,791,852	24,395,343	24,259,786	30,083,666
(ロ)前受金	66,995,000	53,249,000	43,614,000	30,020,000
(ハ)預り金	21,668,111	14,166,524	12,197,276	10,393,760

## 5. 資金収支・事業活動収支決算の要約

### (1) 資金収支決算

#### 収入の部

単位円

科 目	2年度決算額	3年度決算額	4年度決算額	5年度決算額
学生生徒等納付金収入	284,279,724	240,575,386	211,291,499	160,363,333
手数料収入	2,608,900	4,694,700	3,756,500	5,023,000
寄付金収入	3,391,270	5,030,000	4,392,800	4,300,000
補助金収入	289,083,108	332,747,756	320,074,416	328,188,505
資産運用収入	1,754,648	1,669,756	1,064,555	663,211
資産売却収入	0	2,123,350	143,000,000	2,855,380
事業収入	90,272,414	91,963,701	98,399,045	95,425,211
雑収入	40,953,141	30,345,991	14,345,691	25,527,580
前受金収入	66,995,000	53,249,000	43,614,000	30,020,000
その他の収入	226,432,093	258,102,894	273,663,178	344,899,328
資金収入調整勘定	△161,364,729	△174,693,301	△133,989,317	△120,460,586
前年度繰越支払資金	1,048,365,400	978,237,897	915,798,551	1,030,970,075
収入の部合計	1,892,770,969	1,824,047,130	1,895,410,918	2,007,775,037

#### 支出の部

単位円

科 目	2年度決算額	3年度決算額	4年度決算額	5年度決算額
人件費支出	488,985,007	467,485,112	451,043,775	449,004,680
教育研究経費支出	141,990,844	161,150,588	134,989,852	124,538,605
管理経費支出	71,459,370	80,936,702	78,351,189	77,947,015
施設関係支出	4,078,450	15,815,270	19,293,630	10,085,865
設備関係支出	10,065,421	13,730,068	6,062,999	4,770,788
資産運用支出	0	0	0	0
その他の支出	219,170,143	198,651,865	194,095,229	292,026,874
資金支出調整勘定	△21,216,163	△29,521,026	△19,395,831	△30,812,627
次年度繰越支払資金	978,237,897	915,798,551	1,030,970,075	980,213,837
支出の部合計	1,892,770,969	1,824,047,130	1,895,410,918	2,007,775,037

## (2) 事業活動収支決算

単位円

区 分	科 目	5 年度決算額	
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	160,363,333
		手数料	5,023,000
		寄付金	2,639,591
		経常費等補助金	327,539,505
		付随事業収入	95,425,211
		雑収入	28,707,678
		教育活動収入計	619,698,318
	事業活動 支出の部	人件費	445,536,680
		教育研究経費	170,973,768
		管理経費	89,593,651
教育活動支出計		706,104,099	
教育活動収支差額		△86,405,781	
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	663,211
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	663,211
	教育活動外収支差額		663,211
経常収支差額		85,742,570	
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	3,449,000
		特別収入計	3,449,000
	事業活動 支出の部	資産処分差額	626,028
		その他の特別支出	0
		特別支出計	626,028
特別収支差額		2,822,972	
基本金組入前当年度収支差額		△82,919,598	
基本金組入額合計		△8,442,762	
当年度収支差額		△91,362,360	
前年度繰越収支差額		△1,712,056,917	
基本金取崩額		0	
翌年度繰越収支差額		△1,803,419,277	
事業活動収入計		623,810,529	
事業活動支出計		706,730,127	

(3) 教育研究経費比率

(教育研究経費比率(%))=教育研究経費支出÷帰属収入×100)

学校法人佐保会学園(全体)

単位円

区分	帰属収入合計	教育研究経費支出	教育研究経費比率%
令和 2年度	712,343,205	191,024,794	0.268
令和 3年度	709,117,877	207,318,242	0.292
令和 4年度	655,470,795	181,929,006	0.278
令和 5年度	623,810,529	170,973,768	0.274

6. 土地建物

単位㎡

区分	土地	建物延面積	備考
短期大学	34,596	11,145	借地合計: 3,505 ㎡
校舎・講堂・体育施設	12,132	10,729	
屋外運動場	17,812	—	
その他	4,522	416	
附属生駒幼稚園	3,811	1,356	
建物敷地等	2,845	1,356	
屋外運動場等	966	—	
附属河内長野幼稚園	1,824	695	
建物等	1,274	695	
屋外運動場等	550	—	
附属倉敷幼稚園	3,028	574	
建物敷地等	1,389	574	
屋外運動場	1,639	—	
合計	43,259	13,770	

III 事業の概要等

1. 奈良佐保短期大学

令和5年度は奈良佐保短期大学にとって、重大な転換を迎える年度となった。令和5年12月23日(土)に行われた理事会において、令和7年度以降の学生募集を停止する旨の決定がなされた。令和7年度学生募集停止決定の主な要因として、急激な少子化の進行、高校生の四年制大学大学志向が顕著になってきたこと、高等教育無償化の充実等により短期大学の志願者が急激な減少傾向等々があげられる。

これにより、学生がすべて卒業等となる7年度をもって、閉学することも想定される事態となった。今後は、在学している学生が充実した教育を受け、豊かな学生生活を送る中で、資格取得や就職活動をフォローし、社会に役立つ人材を育て、未来に向かって奈良佐保短期大学の進むべき方向を早期に示し、役員はじめ教職員一体となって残された期間充実した運営に取り組んでいくこととしている。

以下、主な学科・委員会・各部署ごとに令和5年度の事業実績報告を詳述する。

## 1. 教育、研究等に関する事業

### (1) 生活未来科

#### (ア) 入学前体験授業（入学前体験プログラム）の実施（継続 平成 23 年度～）

令和 5 年 12 月 17 日（日）に年内に入学が確定している入学予定者に対して「入学前体験プログラム 第 1 回入学前体験授業」を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のために始めたオンライン開催であったが、遠方の入学予定者なども参加しやすい、拘束時間が短く参加しやすいなどのメリットもあったため、令和 5 年度もコース別にオンラインで GoogleMeet を使った体験授業を行った。

10 月・11 月の合格者に対し、QR コード付きの案内状を送付し Google フォームにアクセスしてもらい出欠確認を行った。入学予定者 16 名のうち 13 名（生活福祉コース 5 名、食物栄養コース 7 名、ビジネスキャリアコース 1 名）が参加した。当日、欠席した入学予定者には、各コースよりオンライン配信した内容をメールにて送付し、同じ学びをしてもらったうえで振り返りのアンケートフォームに回答してもらった。オープンキャンパスや入試時に顔を合わせているが、入学予定者も全教員と顔を合わせているわけではない。今回、教員の自己紹介を行ったりしたことは、入学予定者の不安を取り除いたり、大学を身近に感じるところに繋がったのではないかと考える。また、この機会を利用して、各コース入学までの準備として課題を提示し、入学後の授業にスムーズに取り組みるように実施した。

第 2 回は、令和 6 年 2 月 3 日（土）の成果報告会をオンライン視聴してもらった。参加者は少なかったが、入学後のイメージを湧かせるため、学生生活、学びの内容を具体的に知ることができ効果があったと考える。

第 3 回は、令和 6 年 3 月 27 日（水）に入学前説明会として開催した。大学の教育理念はじめ、各コースでの 2 年間の学びの流れの紹介、また入学後、すぐに履修登録、授業開始となるため、履修計画に必要な情報の提供し、履修登録までに 1 週間ではあるが、2 年後の目標を定め、自分が何を学ぶべきか各々が考えられるように情報提供を行った。今年度は、学科全体説明とコース別説明の 2 段階で構成した。

令和 5 年度はコミュニケーションをとる機会を増やそうと回数を増やすことも検討したが、全員が確定した後の実施時期や時間、内容など各コースでも必要性に差があったため令和 4 年度と同じ 3 回の実施となった。（課題）

#### (イ) 生活未来科成果報告会の実施 継続（平成 23 年度～）

令和 6 年 2 月 3 日（土）に奈良女子大学記念館で開催した。対面でも、オンラインでも視聴できるように実施した。

#### 当日のプログラム

タイムスケジュール	内容
13:00	開会挨拶：池内学長 司会：食物栄養コース 1 回生 第 1 部 研修会 トークセッション 「つながる・ひろがる〇〇の未来 ～ナラサホの学びを活かして～」 登壇者：卒業生 4 名・池内学長・武田生活福祉コース長・進行 島村生活未来科長
14:30	休憩
14:40	第 2 部 成果報告会 司会：BC コース 1 回生 発表：①BC コース発表 ②生活福祉コース発表 ③食物栄養コース発表
16:10	閉会挨拶：島村生活未来科長

初めての会場だったため、前日はオンライン配信に向けての入念なりハーサルを行い、当日も音声確認担当なども配置した。昨年までは、研修会の部分は外部講師を招いての講演形式であったが、福祉人材の再雇用を狙った事業の一環であったため、卒業後、転職しながら様々な福祉分野で働く卒業生の話を聞くことに

より、再就職のきっかけになればと思い今回の内容で企画した。第2部の成果報告会は各コース工夫されていて、学生の2年間の学びや学生の成長がよくわかる内容であった。

報告会終了後は Google フォームでアンケートを実施した。外部からのアンケートの回答は19名であった。

1回生2回生も終了後に Google フォームでのアンケートに回答してもらった。

<アンケート一部抜粋>

- ・今回話を聞いた4人の卒業生は、この奈良佐保短期大学で学んだことを無駄にせず、今の仕事にきちんと活かしていることを知った。サホタンでの学びはとても貴重と改めて感じた。特に、「仕事は人のためにするもの」という言葉を聞き、とても心に残った。この言葉を、4月から働き始めるときに肝に銘じておきたいと感じた。
- ・様々なコースの特性を活かした就職先に就かれていて、私も奈良佐保短期大学での学びを活かし、活躍したいと思いました。

オンライン配信については、実習先の指導者、県外学生の保護者、卒業生にも気軽に参加してもらうことができ、学生の学び全容や成果を知ってもらえたのは良かった。(課題)

(ウ)「生活と未来」の内容の拡充 継続(令和4年度～)

3コース合同科目「生活と未来」では、学科教員だけでなく、地域包括支援センター等の協力も得て、外部講師を招いての時間も設定した。

- ・「認知症サポーター養成講座」  
開催日：令和5年6月15日(木)  
講師：奈良市都南地域包括支援センター、奈良市認知症地域支援推進員、  
若年性認知症当事者、当事者の方をサポートされている専門職者
- ・「食と美」  
開催日：令和5年6月22日(木)  
講師：ミス・パリ エステティック専門学校の講師  
栄養、認知症に関する内容は学科カリキュラムの科目でも学ぶ内容ではあるが、「美・ダイエット」など学生の関心の高い視点からの説明や当事者の実際の話は学生の記憶にも残りやすく、評価も高かった。

(エ)地域連携の強化 継続(令和元年度～)

- ・「やまと鉄道まつり2023」  
開催日：令和5年8月5日(土)～6日(日)  
場所：奈良県コンベンションセンター  
内容：地域こども学科と共に参加し、ブース出展、ステージ出演
- ・「親子学習イベント 福祉のお仕事研究会」  
開催日：令和5年9月23日(土)24日(日)  
場所：イオンモール大和郡山  
内容：ビジネスキャリアコース2回生も授業の一環で参加し、親子にクイズを通して福祉のことに関心高めてもらい、高齢者の疑似体験、車椅子体験、介護食の試食体験などを準備し、親子、家族、子ども同士などで多くを体験してもらった。2日間550名参加
- ・「福祉施設の方を招いての交流会」  
開催日：令和5年11月26日(日)  
場所：奈良佐保短期大学  
内容：午前 交流会 2施設 約20名が参加  
午後 スペシャルイベント 日向亭葵氏による落語や体操を取り入れた講演会  
俳優・野村真美氏、サルイン氏、もっち氏を招いたステージトーク  
参加者 147名

(オ) 学科コースの改編の検討

令和7年度入学生に向けて、学科の内容の見直しを行ったが募集停止が決まったため実現には至らなかった。

<生活福祉コース>

(ア) 学生確保のための広報活動の工夫 継続(平成24年度～)

① 現役の高校生に対して、模擬授業や説明会を実施した。

	訪問先	担当教員
11/29(水)	奈良文化高校	武田
12/6(水)	奈良女子高校(通信制)	武田

計2回実施(前年は6回実施)が、1月以降、2校予定していたが募集停止決定により中止となった。

② 8月31日(木)に例年実施している奈良県立磯城野高等学校の入浴実習・介護の仕事についての説明を行った。9月6日(水)には奈良県立奈良文化高等学校の体験授業にて福祉・介護の講義を行った。

③ 奈良県社会福祉協議会・奈良県福祉人材センターの委託による「かいご『再就職』応援セミナー」の講師として招かれ(11/7・2/17 武田)、講座終了後に本学の広報活動及び訓練生入試につながるよう説明を行った。

11月7日(火) 於 ハローワーク奈良 参加者 約20名

2月17日(土) 於 奈良県社会福祉総合センター 参加者 約12名

(イ) フィールドについて検討を続け、授業を展開する 継続(令和2年度～)・新規

① 2回生13名が地域・防災福祉フィールド、介護予防フィールド、障害者福祉フィールドの3つのフィールドに分かれ、研究を進めた。学生の希望を尊重しグループでの研究も認めるところ個人研究6名、グループ研究2班(7名)となった。各フィールドに1名の担当教員を配置し、指導を行った。

② 地域防災避難訓練や福祉交流会はフィールドに関係なく、1回生も交えて全員で分担して取り組んだ。自身の研究がそのまま活かされた学生ばかりではないが、貴重な体験になった。

(ウ) 国家試験対策とカリキュラムの整理 継続(平成29年度～)

① カリキュラムの整理

令和4年度から新設している「チームマネジメント」「防災・災害福祉」を後期に実施した。外部講師による講義を取り入れ、実践的な内容を盛り込んだ授業になった。チームマネジメントでは8組9名の外部講師によって、現場でのチームマネジメントや多職種連携、職場内外の研修、地域におけるマネジメント等の講義を行った。また、次年度について、学習効果の向上を図るために1・2回生合同で行う授業の検討を行い、時間割を作成した。

② 国家試験対策

- ・ 中央法規出版の模擬試験を10月30日(月)に実施、2回生11名が受験した。
- ・ 後期の専門ゼミナール15回、介護総合演習IV15回中の2回、ほかに授業外で計1コマの国家試験対策講座を行った。
- ・ 後期授業終了後国家試験当日までの期間、Google フォームを活用して対策問題を18回配信し、学生の回答に対して追加説明のためのコメントを返却した。
- ・ 1月28日(日)に国家試験を11名が受験した(大阪会場:日本人学生はインテックス大阪、留学生はATCホール)。3月25日(月)に合格発表があり10名(日本人学生9名、留学生1名)が合格した。1名(留学生)は不合格の結果となった。また、既卒性2名が受験したが養成校別合格率を確認したところ2名とも不合格であった。そのため、奈良佐保短期大学の新卒の合格率が90.9%、既卒性を含む合格率は76.9%であった。

(エ) 介護実習の在り方の検討 継続(平成29年度～)

① 実習運営

例年実習に際して、専任教員にて実習指導者と事前打ち合わせ・実習巡回指導・実習終了後の面談を行

い、学生の実習状況の把握に努めている。令和5年度もすべての実習を学外実習施設で実施することができた。これらすべての実習において、実習前日に学生全員に抗原検査を実施し、陰性を確認した上で実習を開始した。

1 回生	介護実習 I ① (5 日間)	6/5～6/9	学外実習施設
2 回生	介護実習 III (施設 20 日間)	8/18～9/14	
1 回生	介護実習 I ② (10 日間)	8/28～9/11	
2 回生	介護実習 III (居宅 2 日間)	11/3～11/25	
1 回生	介護実習 II (20 日間)	2/12～3/9	

(オ) 卒業研究発表会の実施 継続

- ・「卒業研究発表会」を12月26日(火)に開催した。昨年同様介護実習Ⅲに参加していない学生のフィールドでの研究発表も行った。「介護現場における実践報告及び事例研究発表会」については新型コロナウイルスやインフルエンザ等感染症拡大の影響を鑑み、今年度も中止した。
- ・生活福祉コース2回生のうち事例研究発表を11名、フィールドでの研究発表を2名が行った。
- ・2回生が2年間で実習に行った施設(16施設)へ開催案内を送付し、5施設8名の指導者及び施設職員が参加した。そのうち2施設2名はGooglemeetでの参加であった。会場で参加した指導者に学生の発表に対する講評を依頼した。
- ・当日の会場参加は41名(生活福祉コース学生17名、理事長、学長、生活福祉コース教員3名、教職員11名、実習指導者及び施設職員6名、卒業生2名)、Googlemeetでの参加は13名(実習指導者2名、教職員7名、学生保証人4名)であった。
- ・発表会の様子をGooglemeetで配信することにより来場がかなわなかった実習指導者や学生の保証人の視聴、また学内部署及び教職員の視聴にもつながった。録画したものを教職員クラスルームにアップし、オンデマンドの対応も行った。また、留学生の家族が母国からmeetを通じて参加し、学生の発表の様子を見ることができた。

(カ) 実習施設懇談会の実施 継続(平成29年度～)

令和5年度は7月4日(火)に開催を予定していたが担当教員の体調不良により開催することができなかった。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、どのような対策をとりながら介護現場での実習を実施していくかについて実習指導者から意見を伺うことが必要であり、次年度は懇談会を開催する必要があると考える。

(キ) 介護福祉士養成施設協会 奈良県代表校 継続(平成31年度～)

今年度も引き続き奈良県代表校として近畿ブロック会のZOOM会議に出席した。(4/27・11/15)また、令和5年度近畿ブロック会教職員研修会を和歌山・奈良で担当することになり、準備のためのZOOM会議に出席(10/30・1/19・2/29・3/8)し、研修会当日(3/9)の運営を担当した。研修会はZOOMで行い、開催校挨拶を池内学長、第一部の司会を森永教員、第二部テーマ別グループディスカッションの司会進行及び発題を武田教員が行った。令和元年度より代表校を担当しており、次年度(令和6年度)からは他養成校へ代表を引き継ぐこととなった。

<食物栄養コース>

(ア) 栄養士専門科目の学びをより充実させ、栄養士就職に繋げるための授業の改善

「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅡ」授業内容の充実 継続(平成28年度～)

- ① 「基礎ゼミナールⅡ(1回生後期)」では、前半は、「地域防災避難訓練」にむけて奈良県栄養士会により大規模災害での栄養士の活動記録の講演や、前期「基礎ゼミナールⅠ」で災害に備えての防災食の試食、防災を観点にした町歩きや、避難所運営を学ぶHAGUゲームなどを行った。それらの学びを踏まえたうえで、「地域防災避難訓練」では、3チームに分かれて訓練体験のブース運営の準備等を行った。後半は、「栄養指導論実習Ⅰ」や「給食実務論」等で栄養価計算や献立作成など計算力、数的感覚が求められる

科目の増加、また学外実習での記録簿の作成を見越し、基礎力強化を徹底した。

また、福祉交流会に向けてのフィールドごとに提供する食事やデザートの実作等を実施した。更に献立作成に欠かせない食材の分量の感覚を掴むための「秤量実習」や1日の食品目標量を使用した献立の調理を行い、材料から料理に変わった際のイメージ作りなどを体験し、1回生後期の献立作成に繋がるように工夫した。

- ② 「ゼミナールⅡ（2回生通年）」では、令和元年度以降継続している就職活動、給食管理実習、学外実習等に関する事項について令和5年度についても計画的に取り組んだ。給食会社採用担当者に、働く現場として増えている委託会社栄養士の働き方など具体的に示してもらい、卒業生からの就活時や就業してからの勤務体験談を話してもらった。学外実習に向けても、授業時間を活用し情報共有しながら準備を進めていけるように工夫した。さらに後期は学外実習の準備に加え、栄養士実力認定試験対策を行い、令和5年度は28名が受験し、A判定19名（67.9%）、B判定7名（25.0%）、C判定2名（7.1%）であった。

【参考：令和4年度は25名が受験し、A判定18名（72.0%）、B判定6名（24.0%）、C判定1名（4.0%）】

(イ) 栄養士+αの力をつけるための授業の取り組み

「ゼミナールⅠ」フィールド制科目における取り組みの見える化 継続（平成28年度～）

- ① 「ゼミナールⅠ（フィールド）」は、前期（2回生）は、各フィールド1回生後期での取組みを活かし、実践活動に取り組み、イベントでの商品の販売、講座の開催等を実施した。各フィールドで下記の内容に取り組んだ。

医療・福祉フィールド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2月17日（土）骨粗鬆症の栄養相談会（大和郡山市内の調剤薬局）で、必要な栄養素とおすすめレシピを記載した、骨粗鬆症の栄養指導媒体作製。</li> <li>● 糖尿病食の食事・嚥下食の研究と調理。</li> </ul>
食育フィールド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 奈良市子育て支援センター夢の丘 SAHO の親子を対象にした親子クッキングを5月18日（木）と7月20日（木）に実施。農園で収穫したかぼちゃクッキーともちもちポンデドーナツ、夏野菜ピザとドロップゼリー&amp;牛乳寒天一緒に調理し、レシピを配付。</li> </ul>
製菓フィールド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お母さんの負担になりにくい野菜を使った簡単なおやつのプロッコリードーナツ、プロッコリーポテトもち、野菜のカラフル卵ボーロ等を研究し、レシピ集を作成。</li> <li>● 第21回ザ・地産地消 家の光料理コンテストに「大和茶プリン」「吉野本葛入りガトーショコラ」を応募。</li> <li>● 8月5日（土）・6日（日）の大和鉄道まつりで学生考案のお菓子の作製、販売。シフォンケーキ、ガトーショコラ、クッキーなどを販売。</li> </ul>
フードビジネスフィールド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ザ・地産地消 家の光料理コンテスト・アレルギーレシピコンテストに「台湾鍋焼き焼きおじやにゆう麺」、チーワングランプリにシソの葉チーズ寿司、を応募。またアレルギーレシピコンテストに酒粕を使ったクッキー「おちょこチョコ」を応募し入選。</li> </ul>
製菓フィールド&フードビジネスフィールド&食育フィールド有志4名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第6回ダルメイン世界マーマレードアワード&amp;フェスティバル日本大会に、学内農園で栽培された大和橘を使用した「塩マーマレード」を応募。</li> </ul>

- ② 後期（1回生）は、昨年度同様11月26日（日）の福祉交流会に向けて2フィールドで活動した。医療・福祉フィールドは高齢者・認知症の方の施設、障がい児・障がい者施設、障がい者施設の方々に向けランチ、製菓フィールドはデザートを担当した。対象者の特性に応じた料理の内容、形態を考え、食育実践演習で自分たちが栽培した野菜を使用し、材料費を考慮し提供した。献立を紹介するリーフレットやレシピ等も作成し、料理内容を説明した。また、11月19日（日）奈良県中央卸売市場で行われた「冬の市場まつり」にフードビジネスフィールドが出店し「甘熟プルコギ丼」を販売し、同時に開催された「大学生の自慢料理コンテスト」で郡山市長賞を受賞した。実施後に、フィールド毎で振り返りと発表を行い、情報共有を行った。後期後半は、各フィールドで、2回生の前期に向けての活動計画立案や準備等を行った。

(ウ) 地域連携の強化 継続（平成 29 年度～）

① ゼミナール等を活用した地域活動 [再掲 1- (1) -食栄- (ア)]

- ・ 奈良市子育て支援センター親子を対象とし食育クッキング（5/18, 7/20 実施）
- ・ 地域防災避難訓練は 1 回生が中心となり、3 グループに分かれて、炊き出訓練、防災食 α 化米の試食、奈良県栄養士会と一緒に防災食パッククッキングの演示と試食、鹿野園地域調査の発表を担当。
- ・ 大和鉄道まつり（8/5, 8/6）

② その他

- ・ 10 月 29 日（土）三の丸会館調理室で「防災食づくり体験教室」を実施。大和郡山市材木町の自治会員 28 名が参加。「みんなで作ろう!防災食」として、パッククッキングで白ご飯、α リゾット、ツナカレー、シーフードペペロンチーノ、ヨーグルト蒸しケーキ、アメリカンドッグの 6 品を調理実習し、試食。
- ・ 2 月 25 日（日）に奈良県子育て大学として「冬野菜とだしを味わう（親子クッキング）」を島村教員が担当し実施。子ども 4 名大人 3 名 3 組が参加し、農園で栽培した冬野菜を使用した里芋ご飯、けんちん汁、カブの和え物等を調理し、試食。

(エ) 学生確保のための取り組み—魅力ある食物栄養コースの発信—

- ① オープンキャンパスでは、参加者へのランチの提供と佐保の食の体験の実施を再開。ランチでは、農園の旬の野菜をふんだんに使用した毎回異なる献立の食事を学生スタッフ分も加えた 30 食程度を提供。体験授業「生活と未来」では、食物栄養コース主担当で防災食づくり、蒸しパン作り、奈良の苺を使用したイチゴ大福作りなどを再開。食育体験コーナー「食の扉」では、カラフル白玉団子（野菜ペーストを使用した団子）の試食などを実施。様々な演習を通して、参加者と学生スタッフと教員とのコミュニケーションを自然に繰り返すことができ、教員と学生との関係を PR できた。

② 体験授業（出張講義）

8 月 31 日（木）奈良県立磯城野高等学校 3 年生ヒューマンライフ科の入浴体験実習の際に介護食についての講義を実施（島村教員）

2 月 14 日（水）奈良文化高等学校 2 年生食文化コース 1 クラス実施 「奈良の食を味わう」調理実習（島村教員）

③ 進路ガイダンス（体験授業）

9/6 添上高校 2 年生（紀平教員）、9/6 香芝高校 2 年生（飯田教員）9/27 天理高校 2 年（紀平教員）

10/4 奈良商業高校 2 年（紀平教員）、10/6 郡山高校 2 年生（紀平教員）、10/17 奈良商業高校 2 年生（紀平教員）、11/10 奈良文化高校 2 年生（紀平教員）、11/15 奈良商工高校 2 年生（紀平教員）、12/20 和歌山紀央館高校 2 年生（紀平教員）、2/14 奈良文化高校 2 年生（島村教員）、

(オ) その他

今年は例年お世話になっている学外実習先によってはコロナ禍が収束し、受け入れ条件や内容がほぼ例年に戻りつつあった。学生の特性や就職希望を考慮し、学外実習先を決定することによって、実習に行った施設等への就職につなげることが出来た。

<ビジネスキャリアコース>

(ア) インターンシップと他科目、講師、企業・団体・大学等との連携強化 継続（令和 4 年度～）

今年度も「インターシップⅠ」において、なら歴史芸術文化村(福原氏)、及び「インターシップⅡ」にて平城宮跡歴史公園(市川氏)のご協力のもと「①事前講義(リサーチ、提案準備)→②見学会(仮説立案)→③実習(仮説検証と気づき・発見)→④事後講義(考察、プレゼンテーション準備)→⑤報告会(まとめとふりかえり、提言、教職員&学生ディスカッション)」の「BC 型インターシップ」のルーティンを確立した。これは学生主体で「チーム協働」「ディスカッション」「自らが立てた仮説検証」を経てインターシップ先へのフィードバック(「提案」と「感謝」)を行い、同時に学内外の講師、関係各位や教職員に共有した。

さらに実施時期の定例化や実習申請、講師依頼等手続関係に加えてインターシップ手引書、学生履歴書・誓約書等ドキュメント、ガイドブック等ツール・ラインナップも取り揃え、BC のプロジェクト型インター

シップの「パッケージ化」「システム化」がようやく完成した感がある。

例年「インターシップⅠ・Ⅱ」は実習先から学生に対して、事前分析の丁寧さ、現場での真摯な仕事ぶり、そして仮説検証と提案・提言の的確さ、発見力とプレゼンテーション技能等に高い評価を得ている。

他方、これらインターンシップのプロジェクト成果は余すことなく各種学外イベントの企画実施にてシナジー効果を起こし、「奈良鉄道まつり」においては3,000名、「大和鉄道まつり」においても2,000名を超える参加者に対して受付や参加者の子どもたちヘクラフト体験やステージでのBC紹介プレゼンテーションなど、奈良佐保短期大学の多彩なコンテンツとコース・アイデンティティをPRすることが出来た。また昨年引き続き「ビジネス実践演習Ⅱ」においては市川氏の紹介で行政、一般企業、現役県議など多彩な外部講師によるビジネス実務の赤裸々な現状を学び、さらに「キャリアデザイン」においても株式会社高木包装の企画会社社長、社員各位の会社方針やプロモーション、人事政策までの講義を受け、「新入社員は常に社員から期待され注視されている」など心に響くメッセージが学生たちへ送られた。

さらになら歴史芸術文化村においては令和5年末に「夢の丘 SAHO セミナー（秋・冬）知の扉シンポジウム」を協働開催しBC産官学連携活動の実践例として奈良県、文化村、本学の取組発信をシンポジウム形式で行い、特に福原氏からはインターンシップにおける学生提案及び真摯な勤務態度に多大なる賛辞を受け、「SAHOファームの作物を文化村の道の駅で販売する」「子どもと触れ合うスペースで学生が育成を経験する」「文化村を奈良佐保短期大学のセカンドキャンパスとして使って欲しい」など最大級の評価を得ることとなった。

このように、コース全体として年間を通じて順調に産官学連携が活発かつ継続的に進み、それぞれにおいて学生たちのビジネス実務に対する最大限の気づきと経験となったことに加えて、BCらしい連携、インスパイアが随所でさらに起こった1年であった。引き続き地域での「繋がり」を大切に継続していきたい。

#### (イ) カリキュラムの抜本的体系化 2.0 継続（令和4年度～）

本年度も引き続き「教育理念→カリキュラム→キャリアパス」の体系化を進め、カリキュラムの新規性を打ち出すために観光実務士資格を新規申請、認可され令和6年度から実施の運びとなった。「観光ビジネス」は本資格に合わせて「経営学、マーケティングから見た観光」をテーマにシラバスの刷新を行った。BCは「キャリアデザイン」における学生・キャリア支援センターとコラボした授業運営や「大和鉄道まつり」の広報委員会を通じた学生・教職員全学連携型のプロジェクト推進を進めており、今後も学科・コースの枠を取り払った活動を推進していきたい。

本年度の医療事務関連の資格対策講座において2回生の医療事務関連就職志望者は当初6名、最終的に5名となり、夏の集中講義や就職活動を乗り切り、ほぼ全員が医療関係職に就くことができた。医療事務関連の整理業務はコスト削減と志望者に寄り添う両建ての視点でさらに削減・調整を重ね本年度ようやくほぼ完了した。

#### (ウ) ビジネスキャリアコース志望の高等学校と幅広い関係づくりにより、入学者数増加をめざす

継続（平成29年度～）

奈良県立磯城野高等学校、奈良県立二階堂高等学校をはじめとした入学実績校においては地域こども学科教員との重点同行訪問を実施し、相互協力のもと点(学科・コース個別)から面(協働・全学)視点で大学案内や科・コース紹介に努め、磯城野高校からは来年度BCに1名の入学者が決定した。特筆すべきは令和5年以内に経営・経済系のガイダンス志望者が急増し、京都府立乙訓高等学校は1年生が23名、京都翔英高等学校は「短大の経営学」志望の1年生2名が参加した。さらにガイダンス運営会社とのコラボとコミュニケーションを深めたところ令和6年1月から3月には奈良、滋賀、三重、京都の高等学校から経営・経済系のガイダンスオファーが4校予定されていたなど、高校生生の経営・経済系志向の高まりを実感できた。

### (2) 地域こども学科

#### (ア) 免許資格取得に向けた教育の充実の取り組み 継続（平成23年度～）

- ① 令和5年度卒業予定者44名中、幼稚園教諭二種免許状取得者31名、保育士資格取得者35名、小学校教諭二種免許状取得者0名（こども教育コースに進んだ学生は0名のため）である。R5年度の資格取

得率は、幼稚園教諭二種免許状 70% (R4 86.4%)、保育士資格は 80% (R4 83%) である。残年ながらこの 2 年間の成果としては下降している。この結果から入学当初のコース分けとカリキュラムに課題があるのではと考えられ、令和 5 年度前半にコースとカリキュラムの大きな見直しと改編を行った。

- ② 令和 4 年度入学時より「履修カルテ」を活用し、教育課程の履修状況や学びの深化を教員と学生で相互確認した。実習にあたっては、実習指導教員及び PT が個別指導、保証人との連携の多くの時間を費やして指導にあたったにもかかわらず、資格取得にいたらなかった。

(イ) 令和 5 年に実施したコース廃止とカリキュラム改編について

- ① これまで入学前研修でこども教育コースとこども保育コースに分けていた点に大きな無理が生じていると考えられることから、令和 5 年 4 月よりコース及びカリキュラムの改編を行った。まず、1) コースは廃止し、入学者全員が 3 資格をとれるようにカリキュラムを変更した。2) 本学科の大きな特徴である、フィールドゼミナールも、入学後に 5 領域を体験後、1 回生の 6 月頃に資格取得及びフィールドゼミナールの選択が可能となるようにした。3) このカリキュラム改編と運用上の工夫により、入学時に明確なイメージをもてない学生も、無理なく、個性にあわせて学びを深め、資格を取得することが可能となった。
- ② 次年度 2 回生になる学生はコース制として入学した学生であるが、資格取得率が下降しないように、教員の情報交換を密にとり、学生の成長につながる学びを推進していく。次年度 1 回生については、初年度教育に力を注ぎ、学生が取り残されることがないように、教員一同、力をあわせて資格取得率を上昇させていきたいと考える。

(ウ) 初年次教育・基礎教育の充実への取り組み 継続 (平成 23 年度～)

- ① フィールドゼミナール、基礎ゼミナールなど、学生にとって充実した初年度教育を行った。昨年はコロナ体制であったが、今年は問題なく (5 類相当)、対面教育を推進した。次年度においても、本教育を継続する。フィールドゼミナールの発表会も令和 5 年 12 月に実施、充実した内容であった。次年度もこの体制を継承する。
- ② 1 回生「基礎ゼミナールⅠ」(前期)「基礎ゼミナールⅡ」(後期)、「国語表現法」「キャリアデザイン」授業の内容について、各科目の特色を活かした、初年次教育・基礎教育・キャリア教育の充実に向けたシラバスの充実をはかることができた。初年次教育・採用試験への取り組みに重点を置いた「基礎ゼミナール」と、体験的に保育者・教育者のイメージを掴む「キャリアデザイン」のシラバスの深化を目指す取り組みを令和 6 年度も継承する。
- ③ 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」について  
本学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムが、文部科学省令和 5 年度認定教育プログラム (リテラシーレベル) に認定された。

(エ) 就業力の育成について 継続 (平成 23 年度～)

キャリア実績としては、幼稚園、保育園、施設など、資格を生かしたキャリアにつくことができた。(令和 6 年 2 月時点では 80% を上回っている)。これは本学科の理論と実践が生かされている結果と受け止めている。

(オ) 地域貢献事業の実施について 継続 (平成 22 年度～)

例年実施している以下の地域貢献事業の他に施設の子どもたちを迎えて「フットサル大会」、「あそびのひろばプチ」、「大和鉄道まつり」、「里親クリスマス会」など、多数のイベントを実施した。学生、教員が協力して、地域の皆様との交流を深めることができたと感じている。これらの取り組みの一部は奈良新聞に掲載された。

(地域貢献事業)

- ① オープンキャンパス時に「ピアノ無料講習会」(予約制)実施
- ② 入学予定者に対する「入学前ピアノ講習会」(全 3 回)実施
- ③ 地域の就学前親子対象とした「あそびのひろば」(予約制)を地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」との協同主催でオープンキャンパスの午前中に年間 8 回開催
- ④ 第 2 回「あそびのひろば」を 1 日 2 部制で開催

(カ) 教職・保育成果発表会について

学科学生が活動内容について共有する「教職・保育成果発表会」を実施した。また、令和4年度「成果報告会」内容については、「報告書」として作成して残すことができた。

(キ) 入学前学習支援について 継続（平成23年度～）

3月に実施された入学前研修会として、令和5年度も全3回の研修会を実施し、第1回目は保証人にも参加いただいた。

大学及び学科の指導方針への理解をお願いした。

- ① 大学授業内容の理解
- ② 2年間5回の実習スケジュール及び参加内規の理解と心構え
- ③ Chromebook 及び saho navi システム利用方法の理解
- ④ 入学前の仲間づくり

(ク) 子育て支援センター“ゆめの丘 SAHO”への支援について

地域の就学前親子対象とした「あそびのひろば」（予約制）を地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」との協同主催でオープンキャンパスの午前中に年間8回開催することで、教員及び学科学生がより円滑に「ゆめの丘 SAHO」との連携を深めることができた。

(ケ) 2回生保護者教育懇談会について

2回生への進級にあたり、履修状況や資格取得の見込みなど、保護者に学生の状況を理解してもらうために、GPA2以下の学生及び保護者との面談が必要である学生・保護者に対して教員が個別懇談を実施した。

(コ) 実習施設との教育連携協定を締結 継続（令和4年度～）

実習でお世話になっている小学校・幼稚園・保育所・児童福祉施設について、正式に教育連携協定を締結し、教育・研究における協力関係を結ぶことを目指したが、実際に締結には至らなかった。

(サ) 学科独自の広報の取り組み

地域こども学科の取り組みを発信するためのリーフレットを作成し、500部を配布した。  
また若手教員の Youtube による動画配信、SNS（ピアノ、レストラン、サホピコンサートなど）、教員と学生が学科の PR を活発化させることができた。また、学科の取り組みは奈良新聞などにも掲載された。

(3) 日本語教育別科

新型コロナウイルス感染症の扱いがインフルエンザと同じ5類になったが、海外からの留学生の増が見込めない状況と日本語能力を有する者が他の進路に流れる状況が続いているため、日本語教育別科については、令和6年度は募集を行わなかった。

(4) 介護職員初任者研修

(ア) 介護職員初任者研修課程の実施 継続（平成25年度～）

- ① 令和5年度は2回生7名、1回生1名の計8名が受講した。（生活未来科生活福祉コース3名、食物栄養コース3名、地域こども学科2名）
- ② 学内での講義・演習を120時間実施した。
- ③ 遅刻や欠席のあった科目について、研修担当教員へレポート課題を依頼、学生より課題を回収、教員への提出、学生への返却という一連の流れを行った。生活支援技術の科目については補習を実施した。
- ④ 受講生8名全員が研修を修了した。

(イ) 修了評価の実施 継続（平成25年度～）

修了評価（筆記試験）を9月25日（月）に行い、8名が受験、5名が合格した。

不合格の3名について補習を行い、10月12日（木）に再試験を実施し、3名全員が合格した。

(ウ) 受講生の確保（在学生） 継続（平成21年度～）

3月の入学前説明会、4月のオリエンテーションで各学科コースから学生及び保証人に周知し、4月3日（月）に説明会を行った。説明会には9名の学生が参加したが、研修日程や他の集中講義の日程の関係からか1名

は受講しない結果となった。定員の 20 名には達さなかった。

(エ) 受講生の確保 (卒業生、一般)・受け入れ 継続 (平成 29 年度～)

ウェブサイトで情報をアップすることと履修証明プログラムの 1 つとして地域・国際連携センターからも応募を呼びかけていたが、一般からの申し込みはなかった。

(オ) 学内での非常勤講師依頼 継続 (平成 26 年度～)

学内で非常勤講師のコーディネイトを行った。7 名の講師 (介護現場で実際に働いている方々、他大学教員) に依頼した。

(カ) 研修の運営 継続 (平成 25 年度～)

研修日に授業担当者以外に 1 名の教職員が待機するシステムをとり、出欠管理、資料のコピー、非常勤講師出向日には昼食準備等、事務的な対応を行った。

(キ) 令和 5 年度の実施報告と令和 6 年度に向けての準備 継続 (平成 25 年度～)

教育支援センターと連携し、県へ令和 5 年度の実施報告 (11/28) と令和 6 年度の実施計画の届け出 (2/22) を行った。

(ク) 奈良県からのアンケートへの回答 継続 (平成 28 年度～)

令和 4 年度介護職員初任者研修実施状況調査の提出について県から依頼があったため、教育支援センターと連携し回答した。(10/23)

(5) 研究紀要の刊行 (課題) 継続 (昭和 51 年度～)

(ア) 本学教職員の研究成果を発表する機会としての「奈良佐保短期大学研究紀要」第 31 号の発行

「奈良佐保短期大学研究紀要」第 31 号を 3 月 15 日 (金) にウェブ発行した。研究報告 1 件に加え、「2023 年度研究業績一覧」を掲載した。国立国会図書館には、印刷したものを一部送付した。

(イ) 「奈良佐保短期大学研究紀要」継続的なデータ公開方法に関する検討 新規 (令和 5 年度～)

「国立国会図書館 オンライン資料収集制度 (e デポ)」への利用申請を行った

「奈良佐保短期大学機関リポジトリ」については、閉学後は退会となり、登録データは削除となるため、1 月 17 日 (水) 第 6 回図書・学術委員会で審議後、各学科・コースに諮り、学内承認を得た上で、1 月 22 日 (月) に、国立国会図書館オンライン資料収集制度 (e デポ) への利用申請を行い「NDL デジタルコレクション」として継続的に公開できるよう手続きをとった。その後、「『奈良佐保短期大学研究紀要』継続的なデータ公開方法に関する検討案」資料を各学科・コースに提示し、周知を図った。

## 2. 入学生の確保に関する事業

### <入学試験関係>

(1) 令和 6 年度入試状況

(ア) 6 日間の入試日程で入試を実施した。昨年よりもさらに出願者が減少し、令和 5 年 12 月 23 日 (土) 理事会において令和 7 年度以降の学生募集停止を決定した。

1 月、2 月、3 月入試及び職業訓練生受け入れも含めた結果は次のとおりである。

R6.3 月現在

【受験者数・合格者数等】 入試種別	回数	生活未来科			地域こども学科			計		
		受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数
総合型選抜(体験)	1	1	1	0	1	1	0	2	2	0
総合型選抜(面談)	5	4	4	0	4	4	0	8	3	0
学校推薦型選抜(指定校)	1	7	7	0	9	9	0	16	16	0
学校推薦型選抜(公募)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般選抜	2	0	0	0	1	1	1	1	1	12
自主的活動評価入試	3	4	4	0	5	5	0	9	9	0

社会人入試	5	2	2	0	0	0	0	2	2	0
連携校入試	1	2	2	0	1	1	0	3	3	0
特別連携校入試	1				1	1	0	1	1	0
外国人留学生入試	5	0	0	0	1	1	0	1	1	0
奈良県職業訓練※	1	18	14	0	7	6	0	25	20	0
合計		38	34	0	30	29	1	68	63	1
入学予定者数		34			28			62		

※奈良県職業訓練の募集定員は、介護福祉士養成科（8名）、栄養士養成科（12名）、幼稚園教諭・保育士養成科（6名募集）であった。

#### 【入試種別ごとの志願者数の推移】

項目	令和6年度入試	令和5年度入試	令和4年度入試	令和3年度入試	令和2年度入試
総合型選抜(体験)	2	9	10	14	35
総合型選抜(面談)	8	5	16	6	20
学校推薦型選抜(指定校)	16	24	30	36	19
学校推薦型選抜(公募)	0	2		5	5
一般選抜	1	6	4	3	1
自主的活動評価入試	9	6	7	12	3
ファミリー入試					
社会人入試	3	4	3	3	5
連携校入試	3	9	11	13	12
特別連携校入試	1	0	1	2	
外国人留学生入試	1	0	1	14	13
奈良県職業訓練	28	25	47	42	27
合計	72	90	130	150	140

#### (2) 受験生の動向について

受験生の出身高校所在地は、次のとおりである。令和3年度入試以降は奈良県職業訓練含まず

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他※	留学生	計
6年度	27	0	5	4	0	2	3	1	1	43
5年度	47	0	3	1	3	3	6	2	0	65
4年度	58	0	14	3	1	1	2	3	1	83
3年度	64	1	14	7	0	2	4	2	14	108
2年度	75	0	20	9	4	1	8	10	13	140

※「その他」には、奈良県職業訓練者数も含む(2年度分のみ)

#### (3) 入試説明会について

令和5年5月23日(火)に近府県の高等学校進路指導担当教諭を対象とした入試説明会を、622講義室にて開催した。参加校数は、次のとおりである。

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他	日本語学校等	計
6年度	14		1							15
5年度	20		2							22
4年度	16		1							17

3年度	18		2	1						21
2年度	26		3	1						30

(4)その他

- ・新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症は5類の扱いとなったが基本的な感染防止対策は継続した。マスク着用、会場準備段階では各試験会場のアルコール消毒、受験生間を広げた座席指定等を実施した。

- ・令和7年度以降の学生募集停止を決定したため、学生募集活動を実施した最終年度となった。

- ・入試事業における必要経費の節減

進学情報関係業者には令和7年度契約申込解除を速やかに連絡、学生募集要項作成中止も含め解約や着手済み経費などをできる限り抑制した。

<広報関係>

(1) 令和5年度広報活動

(ア) オープンキャンパスについて

本学の魅力を志望者に直接伝える機会として、全学体制で取り組んだ。全体会、学科・コース紹介、体験授業、選択型プログラム等のメニューを設定した。ランチ提供を再開し概ね好評であった。

令和6年2月18日(日)が最終回となった。

①オープンキャンパス参加状況(学年別・学生ボランティアスタッフ)

開催日	参加者	高3生既卒者	高2生以下	保護者付添者	計	学生等スタッフ
4月29日(土)		9	1	7	17	6
5月13日(土)		5	6	4	15	6
6月4日(日)		9		9	18	6
6月17日(土)		10	1	6	17	7
7月9日(日)		9	3	18	30	10
7月15日(土)		7	1	8	16	8
8月5日(土)		6	5	6	17	1
8月20日(日)		7	13	6	26	17
9月16日(土)		9	2	10	21	0
11月5日(日)		5	5	12	22	5
12月9日(土)		5	1	4	8	3
1月27日(土)		3			3	4
2月18日(日)		12		7	19	5
	計	96	38	97	229	78

②オープンキャンパス参加状況(学科・コース別)

開催日	参加者	生活福祉	食物栄養	ビジネスキャリア	地域こども	検討中	合計
4月29日(土)			4	1	5		10
5月13日(土)		3	2	3	3		11
6月4日(日)		1	1	1	6		9

6月17日(土)		4	1	6		11
7月9日(日)	1	3	1	7		12
7月15日(土)	1	1	1	5		8
8月5日(土)	2	1	1	7		11
8月20日(日)	3	5	1	11		20
9月16日(土)	1	4	1	5		11
11月5日(日)	1	3	2	4		10
12月9日(土)		4		2		6
1月27日(土)		1		2		3
2月18日(日)		9		1	2	12
計	13	42	13	64	2	134

③大人のオープンキャンパス参加状況

開催日 \ 参加者	社会人	高校生	付添者	計
11月17日(金)				
12月15日(金)	1			1
1月19日(金)	1			1
計	2			2

④オープンキャンパス参加者の推移

	R5	R4		R3		R2	R1	H30
		定例	進学	定例	進学			
4月	10	6		13		13	34	25
5月	11	12	1		8		40	31
6月	20	24		59	1	33	57	49
7月	20	33		35	2	59	52	57
8月	31	25		30	2	38	45	47
9月	11	16		9		18	27	23
10月			4		1	6	—	—
11月	10	6		6		7	—	—
12月	6	4		8	4	4	—	—
1月	3	8		13			—	—
2月	12	21		17			28	—
計	134	155	5	190	18	178	283	232

(イ) 学校訪問・進路説明会等について

高等学校と本学の信頼関係を深め、本学の認知度を高め、本学志願に向けての強い動機づけを目指すとともに、各高等学校の取り組みを見聞きし高校生の実態を知ること、大学教育への円滑な移行と指導の充実を図る一助とするために、奈良県内をはじめ近隣府県の高等学校を訪問し、進路指導担当者等との面談に取り組んだ。進学者等から依頼される模擬授業や分野別説明については各学科教員に依頼し対応したが、学校訪問については入試・広報センター職員を中心に担当した。外国人や社会人への入学案内のために、日本語学校、ハローワーク等への訪問にも取り組んだ。訪問記録はPCシステムで管理し、情報の共有を図った。

①高校訪問実施状況(入試・広報センター職員による広報訪問のみ)

訪問先	校数	回数	1校平均
奈良県 県立高校	24校	31回	1.3回
奈良県 市立高校	2校	2回	1.0回
奈良県 私立高校	9校	11回	1.2回
京都府 高校	12校	12回	1.0回
和歌山県 高校	2校	2回	1.0回
三重県 高校	3校	3回	1.0回
日本語学校	0校	0回	0回
ハローワーク	9所	11回	1.2回

R6.3

②進路説明会参加状況

業者名	件数
エフオール	13
さんぼう	18
ライセンスアカデミー	18
昭栄広報	14
TAP	15
ケーホウ	3
キッズ・コーポレーション	2
ジ・パートナーズ	
(株)ハリアー研究所	1
合計	84

R6.3.8

(ウ) 広報用印刷物・グッズについて

印刷物については、例年に倣い、キャンパスガイドをはじめ各種のチラシを作成し、オープンキャンパスや学校訪問時、進路説明会等で配布した。

広報グッズとしては、クリアファイル、ボールペン、チョコレートハンドタオル、マスクケース及びマスキングテープ、キャンパスバッグの在庫を活用した。

また、オープンキャンパス案内用の横断幕を作成し、護国神社下学生駐車場に掲出した。

その他、従前よりオープンキャンパス時に使用している、学校名入り幟、看板、キャラクター顔出しパネルは、継続使用した。

制作物	個数	製作者等
2024年版キャンパスガイド	8000部	(株) トライアウト
オープンキャンパスチラシ	4000枚	プリントパック
LINE・Instagram チラシ	2000枚	プリントパック
一人暮らしツアーチラシ	200枚	プリントパック
駅貼りB2ポスター(10駅・高校配布)	50枚	プリントパック / (株) トライアウト
秋からの入試広報チラシ	300枚	プリントパック
大人のオープンキャンパスチラシ	100枚	プリントパック
年賀状(資料請求高1生・高2生に送信)	352枚	プリントパック / 郵便局
2月・3月オープンキャンパスチラシ	500枚	プリントパック
奈良県実施職業訓練チラシ	3000枚	プリントパック
馬酔木通信42号	3000部	(有) 山田印刷
名入れパイロットボールペン	500本	(株) タカギ
ライトキャンパスバッグ(L)	5000個	(株) トップメール
オープンキャンパス日程横断幕(学生駐車場掲示)	1枚	三岡商事(株)

(エ) 進学情報関係業者等について

進学情報関係業者と契約を結び、進路説明会等の場の提供を受けるとともに、ウェブサイトや進学雑誌等で、本学を案内した。

また、同業者を通じて、志願者からの資料請求を受け付け、学校案内等を送付した。

ウェブサイト・雑誌	進学情報関係業者
ベスト進学ネット	(株) 日東システム開発
J S日本の学校セット	(株) J Sコーポレーション
マイナビ進学ベーシックプラン	(株) マイナビ
マイナビ進学 学びの特色 学部・学科・コース掲載	(株) マイナビ
京阪神エリア 折りたたみ MAP	(株) エフオール
2022 年度大学・短大まるわかり事典	(株) さんぼう
2023 進路の手引 4月号	(株) 昭栄広報
ポータルサイト「高校生のキモチ」	(株) 昭栄広報
アクセス日本留学 2022 学校基本情報ページ	(株) アクセスネクステージ
大学・短大 進路のてびき (中部・西日本版)	(株) ライセンスアカデミー

資料請求受付業者等	件数	OC参加者数	出願者数
(株) マイナビ	172	16	1
ベスト進学	45	5	4
(株) J Sコーポレーション	36	2	1
(株) ライセンスアカデミー	29		
(株) さんぼう	16		
本学ウェブサイト	32	106	29
合計 (2023.2~2024.2)	330	129	35

(オ) 新聞広告・協賛広告等について

地元新聞社を中心にオープンキャンパスの案内等を告知するとともに、各種団体の活動を協賛することで本学の名前を PR した。また、近鉄奈良駅構内のデジタルサイネージにも本学案内を掲出した。

企画等	関係業者・団体
「未来志向・次世代を育む食育」特集	(株) 奈良新聞社
奈良県版 2023 オープンキャンパス情報	サンケイ広告 (株)
「なら中高生新聞夏号」	(株) 奈良新聞社
オープンキャンパスガイド企画	毎日広告奈良 (株)
「オープンキャンパス情報企画」奈良版・伊賀版	(株) 読売連合広告社
「こども未来応援」協賛広告	(株) 奈良新聞社
「未来志向・次世代を育む食育」特集	(株) 奈良新聞社
奈良新創造時代 2023 第3特集 県内学生インタビュー	(株) 奈良新聞社
「介護の日」特集広告	(株) 奈良新聞社
「奈良マラソン 2023」特集協賛	(株) 奈良新聞社
日本栄養士会HP「学校案内」広告掲載	公益社団法人 日本栄養士会
奈良県定通教育振興会報協賛	奈良県高等学校定時制通信制教育振興会
奈良県家庭クラブ誌協賛	奈良県高等学校家庭クラブ連盟
近鉄奈良駅 電照看板	(株) リード / (株) トライアウト

(カ) ニュースリリースについて

学内外で開催するイベント情報を中心に本学の魅力を伝える情報を、県内報道機関へニュースリリースしたところ、地元新聞に掲載された。また、本学教員が FM ラジオで紹介され、学生とともに出演した。

	本年度	昨年度
ニュースリリース	0 本	12 本
新聞掲載	17 回	15 回

本年度は R6.3 現在

(キ) ウェブサイトでの情報発信について

本学ウェブサイトについては、保守業務を業者に委託しているが、一部更新作業については入試・広報センター職員が取り組んだ。イベントの案内、入試情報、トピックスなどの新着情報の更新に取り組むとともに、広報委員会委員の協力によりインスタグラムの積極的な発信に取り組んだところである。3 月入試及職業訓練生受入れ PR のため、スマホの位置情報履歴から対象者を捕捉するバナー配信を行った。

【ウェブページアクセス数等】

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ユーザー	3780	3436	3400	アクセスレポートの活用方法が見出せないため、6月分で中止し、残りの予算でウェブサイトの追従バナーの構築を業者より提案。								
アクセス	4753	5879	5014									
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ユーザー	4245	3537	4021	3431	3174	3283	3272	3005	2686	3322	3075	3184
アクセス	8249	6384	6623	6538	5664	5835	5632	5332	4830	5449	4536	4536

R6.3 現在

【LINE 登録者数】

令和5年度	令和4年度	令和3年度
86 人	73 人	46 人

R6.3.8 現在

【Instagram フォロワー数】

令和5年度	令和4年度
587 人	368 人

R6.3.8 現在

(ク) その他

① ポロシャツ・ブルゾンについて

広報ボランティア参加学生や外部イベント参加学生に本学ポロシャツ・ブルズンを貸し出すとともに、教職員に対してポロシャツ購入を斡旋し、本学 PR の一助とした。

② 学科・コースが主催するイベント等への協力について

学科・コースが主催する学内外のイベントにできるだけ参加し、今後の広報活動に役立てるため写真撮影を行い記録するとともに、外部参加者が見込まれるイベントについては大学案内等を配布し、知名度アップに努めた。

③ 個人情報保護について

学生に対して、広報媒体等への写真等の提供・使用についてアンケートを実施し、了承が得られない学生の写真の使用は避けるなど、学生の個人情報保護に関する手続きを履行した。

(2) 広報活動における必要経費の削減

広報グッズについては、在庫分の整理を心がけ、新規発注は極力手控えた。進学情報関係業者との契約については、実績等を鑑み、精選に努めた。進路説明会への参加についても、県内を中心に精選し、参加した。印刷物については、プリントバック等、できるだけ安価な方法で発注した。

また、令和7年度・令和8年度ガイドブックの印刷業者選定にあたっては、従前に倣い、プロポーザル方式

による競争見積合わせにより業者選定を行った。説明会を開き 10 社に依頼したところ 4 社からプレゼンテーション参加の申込みがあり、広報委員で審査にあたり、最安値をつけた業者と契約した。

### 3. 大学建物の改修及び設備備品の購入、更新、経費の削減の取り組み

#### (1) 施設設備及び節減

電気料金については令和 2 年度 12 月より中国電力と契約し、令和 5 年度の 10 月末までが契約期限である。中国電力が関西エリアより撤退するため契約の更新もできず、関西電力に 11 月より切り替える予定であったが新電力の会社である(株)ミツウロコと金額の比較を行い、(株)ミツウロコが安価であったため令和 5 年 11 月より中国電力から乗り換えることとなった。学生数の減少もあるが前年度と比べると使用金額は 1,325,515 円マイナスとなった。令和 6 年度は 5 月及び 6 月の値上げが予想されるため節減に努めるよう心がけたい。

#### <電気料金の削減効果>

令和 元年度	10,690,621 円 (令和元年度を 100 とする)
令和 2 年度	9,563,489 円 (△1,127,132 円 89.45%)
令和 3 年度	10,292,694 円 (△ 397,927 円 96.27%)
令和 4 年度	12,876,017 円 ( 2,185,396 円 120.44%)
令和 5 年度	11,550,502 円 ( 859,881 円 108.04%)

空調設備の更新であるが学生数の大幅な減少に伴いスポットでの対応に切り替えた。美術棟のエアコンが 25 年以上経過している 2 台のうち 1 台が故障し、修理不能なため新しく更新を行った。またトイレの改修も検討していたが令和 5 年 12 月 23 日(土)に令和 7 年度以降の学生募集を停止することを決定したため、今後は修繕の予算も必要最低限で行うこととしている。

### 4. 学生支援に関する事業

#### <教務>

#### (1) 教学マネジメントの推進を図る。

(ア) 教育目標達成のため学修成果の可視化については、所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況、単位取得状況をまとめ教授会に提出し確認した。令和 5 年度 2 回生は在籍者 109 名のうち卒業要件を満たした者が 9 月に 4 名、3 月に 102 名(約 97%)が卒業した。

GPA のデータ活用に関しては、GPA2.0 以下の学生について学科・コースにて面接指導を行い saho navi にて指導の記録を記入してもらい情報の共有を行った。さらに、GPA 情報を FD 推進委員会に渡し学修成果に関する調査のデータと組み合わせて学生個人に 1 年間のふり返し資料として配付した。また、井田康子賞の受賞者決定にも GPA のデータを活用している。教学会議には、カリキュラムポリシー等の評価に活用するため、科目ごとの GPA を作成し提出した。

(イ) 教務委員会の円滑な審議遂行のため、教職員に向けて毎月第 3 木曜日に教務委員会を開催することができた。毎回委員会の開催前に、委員長と副委員長・副センター長で教務委員会打合せを行い、委員会資料の作成等の確認を行った。

(ウ) 学生支援情報システム saho navi の活用については、令和 5 年 1 月に学内サーバーが、ランサムウェアによるウィルス攻撃を受け GAKUEN システム及び学生支援情報システム saho navi がシステムダウンし復旧が急務となり、令和 5 年度の前期期間は Google クラスルームで対応することとなった。情報メディアセンターと連携し運用上の設定の工夫を行った。

(エ) 令和 5 年度に文部科学省に認定され始まった「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)認定制度」は令和 6 年度に初の修了者を出した。修了者は 16 名に、修了証書を渡すことができた。

#### (2) 学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づき、地域社会や産業界など学外から意見を聴取しカリキュ

ラム改革を行う。

- (ア) 特色あるカリキュラム運営を行うことについて、生活未来科ビジネスキャリアコースでは、観光実務士を新たに取り入れた。地域こども学科では、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の3資格を希望する学生が選択して取れるようにカリキュラムの見直しを行った。
  - (イ) 学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づき、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを見直し新しくした。
  - (ウ) 教育課程編成・実施の方針に基づいて、地域社会や産業界、学外実習の実施機関等からの意見を学外実習などの際に、随時伺い収集している。
  - (エ) 学修効果を高めるために履修人数や使用教室等について配慮した。またパワーポイント(スライド)やDVD等映像資料の活用により学生の理解度を向上させるため、教室希望調査をふまえ、限られた教室の配置を工夫した。
- (3) 実質的な教育効果を上げるため年間予定と授業15回確保及び時間割を策定する。
- (ア) 実習により不足する授業時間を5限目に加え6時限目に確実に補講を実施した。ただし、6時限目についてはGoogleクラスルームの使用で遠隔授業も可とし、教育支援センターで実施の管理を行った。
  - (イ) 前期期間はsaho naviが復旧中で使用できなかったため、Googleクラスルームを活用し、授業計画や休講補講計画、教室変更等を学生や教職員が共有できるよう努めた。
- (4) 地域社会に貢献し社会人を積極的に受け入れる。
- (ア) 科目等履修生を受け入れるためウェブサイト等により情報を発信し、令和5年度は2名が受講した。
  - (イ) 地域・国際連携センターと連携し、2名の聴講生を受け入れた。
  - (ウ) 奈良県委託訓練事業に係る離職者訓練生を受け入れ、令和5年度には食物栄養コースに12名、地域こども学科に5名受け入れることができた。介護福祉士養成の生活福祉コースには入学希望者がいなかった。
  - (エ) 厚生労働大臣の指定を受けた専門実践教育訓練生は1名が履修し卒業することができた。しかし、令和6年度の受け入れについては学校として条件に満たさなかった。
  - (オ) 長期履修学生の受け入れについては、令和5年度入学生にはいなかった。

#### < 学生生活 >

##### (1) 学生支援について

- (ア) キャンパスマナー、パブリックマナーの向上。  
日常的にマナー(バス乗車時のマナー、挨拶、言葉使い等)について注意や指導を行った。
- (イ) 健康増進法の観点から禁煙及び受動喫煙防止についての啓発活動  
学生・キャリア支援センター員で昼休みを中心に見回りを行った。敷地外での喫煙者は減少傾向にある引き続き見回りを行うとともに、ポスター掲示等も含めて啓発活動を行う。
- (ウ) 通学時の安全面を考慮し、交通安全の啓発と指導を推進  
自動車・自動二輪・バイク通学希望者にYoutubeの一般社団法人日本自動車連盟(以下「JAF」という。)の交通安全講習会を視聴し、問題に解答させることを条件とした。自転車通学者にはYoutubeでJAFの交通ルールの確認動画を視聴させた。
- (エ) 障害の疑いのある学生の支援の強化  
学生相談室カウンセラーと情報共有を行い、障害のある学生の支援を行った。9月にはカウンセラーを講師に招き、本学のカウンセリングの方法やスクイグルについての研修会を実施した。

##### (2) 学友会活動の支援について

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことから、4年ぶりに制限なしの大学祭を開催した。また、新入生歓迎会、高円の杜夏祭りへの参加、地域の神輿ボランティア、ハロウィンパーティーやクリスマス会、謝

恩会などのイベントを学生自身が計画し、実施する支援を行った。

(3) 留学生の支援について

留学生はアルバイト等が忙しく、コミュニケーションをとる時間が確保できず、生活面や健康面等具体的に効果的・タイムリーな支援に結び付けることが困難であった。

(4) 大学祭の支援について

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことから、4年ぶりに従来通りの大学祭を開催したが、学生の希望により1日開催となった。

ただし、模擬店については衛生面を考慮し、学生が調理するのではなく、キッチンカーを手配した。

久しぶりの大学祭開催であり、入場制限等を設けなかったことから、卒業生や地域の方の参加も多かった。

<障害学生修学支援>

(1) 支援必要とする学生に対する公平で適切な修学支援の促進

- ① 委員会を3回(4月、9月、3月)開催し、障害学生の認定、支援計画の決定から支援実施後の検証を行い、支援の公正で円滑な運営を図った。
- ② 障害学生修学支援委員会で新規に2名(地域こども学科:2名)の障害学生を認定し、支援計画を策定した。また、前年度からの継続支援として7名(生活未来科:3名、地域こども学科4名)の学生の支援を行った。
- ③ 個別の教育支援計画に基づき、教育支援センターと連携し、支援の調整に取り組んだ。主な支援内容は、授業欠席への配慮、スライドの資料配付、課題提出期限延長等である。また、進路における支援として、民間事業者をより活用して学生の意向に沿った就職情報の提供を行った。
- ④ 学校生活における支援として、2名のカウンセラーによる学生相談を行った。

(2) 支援を必要とする学生の早期認定と支援の開始

新入生並びに保証人に対して、入学説明会前に案内文書や障害支援の取り組みについて周知を図った。入学前からの相談を通じて状況を把握できるよう、入試・広報センターと連携を図り、学生及び保証人等から相談を受ける教員と情報共有及び連携をすることにより、早期から支援認定に繋げることができた。

(3) 相談体制の確保

学生の悩みごとに関する専門的相談窓口として学生相談を運営しているが、カウンセラーが2名体制では相談学生の増加により支援を必要とする学生の相談枠の確保が困難な状況となっていることからカウンセラーと相談し各日1時間延長した。相談回数が4月から12月までの間で延べ275回、実数27名(去年は延べ354名、実数21名)、そのうちカウンセラーから病院を紹介され、受診の結果、次年度より障害学生支援申請を検討する学生が1名となった。相談時間を延長した事により、相談者数が増加した。また、教職員が学生の件で相談する機会も増加した。

(4) 就職支援の充実

2回生となった支援学生8名に対し、本人の意向に沿った就職情報の提供を行った。9月卒業の1名は飲食店でのアルバイト継続となった。3月に卒業した学生の内3名は資格を活かした就職、3名はアルバイト継続となった。1名は本人の学習意欲低下により卒業が困難となった。

(5) 教職員の専門的能力開発のための勉強会・研修会の開催

日本学生支援機構主催の令和5年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」がオンラインで開催され、障害学生支援センター員3名、キャリア担当者1名が参加した。

## <就職指導>

### (1) 就職率100%をめざす

令和5年度は、オリエンテーション期間にキャリアガイダンスとお仕事相談会を実施し、早期から就職活動に踏み出せるように企画した。また、新2回生を対象とした進路希望調査面談を4月から実施した。面談時には就職フェアや企業説明会、他大学のオープンキャンパス等の案内もした。令和5年度は、新型コロナウイルスが5類に移行したことで、就職フェアや企業説明会に参加する学生が増え、就職活動始動のタイミングが昨年よりも早くなったと考えられる。結果的に就職率は昨年よりはアップした。[3/31 現在 97.8% (前年同日 95.2%)]

### (2) サポートプログラムを充実させる

1回生科目「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」及び「キャリアデザイン」において、就職活動で必要となる基礎的な学力や知識(就活スケジュール、一般常識、自己理解、面接マナー等)を実施した。外部講師を招いた就職関連セミナー(スーツの着こなし講座・労働セミナー)を実施することにより、就職への意識を高めることができた。また教員と連携を図り授業内でキャリア意識を高める取り組みをしたことが、学生の就職活動始動に繋がったと考えられる。

### (3) 積極的な就職支援を行なう

多くの学生が資格を活かした就職を目指しているが、中には取得資格に関連しない業種を希望する学生もいる。学生・キャリア支援センターでは、求人票の見方やエントリーシート記入への指導や履歴書等の書類作成、面接練習を実施する等、就職支援全般に対応している。就職活動の始動に踏み切れない学生、資格取得をしない若しくは出来ずに進路変更をする学生、社会参加への意識の低い学生に対しては、各学科の教員と情報を共有することで学生の状況を把握し、声かけや進路に対する相談にのる等、積極的なサポートに努め、スムーズな進路決定に繋がるように支援した。

### (4) 公務員試験対策講座を継続して開講する

公務員を希望する学生への支援を継続的に行い、学内独自のもの、外部専門業者による2種類の講座を計画した。令和5年度は外部専門業者による講座を希望する学生が2名と少なく、中止となった。(5名以上で開講)また、学内独自の講座に特に力を入れ、第1期から第4期にわたり実施し、基礎学力の充実及び面接対策、個別のキャリアカウンセリングを行った。

### (5) 卒業生と在学生との交流の機会をつくる

令和5年度は4年ぶりに大学祭が開催され、卒業生と在学生の交流の機会として、交流会を開催した。双方が交流することで、より良い情報共有や今後の就職活動や進路決定に繋がるように支援を行った。

### (6) 卒業生に短期大学卒業生調査を行う

令和5年度も卒業生調査を卒後1年の学生に行った。回答者率は24.3%であった。

『卒業した短期大学に取り組んでほしい、または支援してほしいと考えていること』の質問に「資格取得の支援」、「仕事に関する悩み相談」が29.6%、「同窓生イベント」25.9%。『短期大学で学んだ知識や能力はどの程度役立っていますか』の質問に「専門分野や学科の知識」「他の人と協力する力」が役立った・ある程度役立った、83.3%であった。資格を活かした職業に就職する学生が多く、卒業後も専門的なことや、仕事に関する悩み相談や、同窓生イベントを希望する傾向にあることが分かった。

## 5. 組織・運営に関する事業

### (1) 図書館の運営

#### (ア) 学習成果の獲得に必要な授業・学生への支援

##### ① 学習資源の整備と充実（課題）

###### a 各学科・コースの学修成果獲得のための資料の充実 継続（平成15年度）

国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへの自館資料のデータアップ 継続（平成21年度～）

図書資料148冊、消耗資料166冊、雑誌304冊を受入・装備した。図書・消耗資料については、国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへデータを追加入力した。受入資料全てに目次情報も入力した。

###### b 福祉関係資料の独自分類資料及び介護記・闘病記関係資料の充実 継続（平成23年度～）

福祉関係独自分類資料を13冊の収集と装備をした。

###### c 学習資源充実のための図書資料の遡及入力及び蔵書点検 継続（平成21年度～）

全蔵書4年サイクル分「2.開架：400～900」の棚卸作業

令和3年度に実施した全蔵書棚卸し（在庫確認）後は、令和3年度に全蔵書を書架別に4区分し、4年サイクルで全蔵書を点検する棚卸し（在庫確認）計画を策定した。令和5年度は、このうち、「2.開架：400～900」の棚卸作業を実施した。「蔵書点検機器ハンディーターミナル」で1日中作業をした場合の点検数は約5,000冊とされており、蔵書点検期間（9/4～9/6）のみでは作業が終わらないため、6月初旬から作業を進めた。

令和5年度も、蔵書区分を細かく設定した後に蔵書点検を行う等、作業方法を検討しながら作業を進めた。18,759冊の棚卸作業（在庫確認）を行った（6/17～11/15）。

・ 毎年点検棚卸作業「各部署保管資料」を実施した。「各部署貸出資料の点検についてのお願い」文書を各部署に配付し、各部署にリストと現物の照合を求め、点検済みリストを回収した。

・ 年度末に、毎年点検棚卸作業「研究室及び非常勤講師教科書等資料」を実施した。

退職者及び専任教員全員（研究室貸出該当者：20名）と教育支援センター（非常勤講師4名）に、「研究室貸出資料の点検についてのお願い」文書と「個人別研究室貸出資料リスト」を配付し、各教員にリストと現物の照合を求め、点検済みリストを回収した。

・ 年度末に、毎年点検分棚卸作業「開架書架：雑誌・資格関係資料・教科書コーナー」を実施した。

・ 「奈良佐保短期大学図書館資料除籍取扱内規」第3条第二号及び第三号の基準に従って、図書・学術委員会で選定された「除籍対象資料」350冊を除籍処理した。

###### d 本学レファレンス記録の保存 継続（平成24年度～）

今後の利用者サービスに活かすため、本学レファレンス記録の保存に努めた。1年間で99件の事例を記録した。

###### e 学生・教員の学修・研究を支援する相互利用の推進 継続（平成21年度～）

国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムを活用し、他大学との文献複写、相互貸借を行った。件数は、文献複写（受付1件、依頼20件）、相互貸借（貸出0件、依頼3件）であった。

##### ② 学習方法の支援（講習会）

###### a 「新入生向け図書館利用ガイダンス」 継続（平成18年度～）

「新入生オリエンテーション」内で動画による説明を行った。

###### b 1回生対象「文献の探し方」講習会 継続（平成19年度～）

教員から依頼のあった各学科・コースの1回生対象に、「文献の探し方」講習会を実施した。講習内容は、図書館の使い方及びオンラインデータベース「Japan Knowledge」「聞蔵」「カーリル」の使い方、参考文献の書き方等の講習、令和2年度から購入している「電子書籍」の使い方等であった。

講習後に演習問題を課し、回収した演習問題と理解度を図るためにとったアンケート結果を担当教員にフィードバックした。昨年度に引き続き今年度も理解度を深めるため、演習課題を添削後学生にフィードバックした。新入生は全員が Chromebook を持っているため、Classroom での資料の配信や Google フォームでのアンケートの回答とした。

4月12日(水) 3時限	「基礎ゼミナールⅠ」	ビジネスキャリアコース1回生 2名
4月13日(木) 1時限	「基礎ゼミナールⅠ」	食物栄養コース1回生 15名
4月13日(木) 3時限	「ゼミナールⅠ」	地域こども学科1回生 21名
4月18日(火) 3時限	「基礎ゼミナールⅠ」	生活福祉コース1回生 5名
4月20日(木) 1時限	「基礎ゼミナールⅠ」	食物栄養コース1回生 15 (うち1名欠席)
4月20日(木) 3時限	「ゼミナールⅠ」	地域こども学科1回生 21名(教育コース2名含む) (21名のうち1名欠席)

- c 2回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」 継続(平成19年度～)  
 教員から依頼のあった授業において、2回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」講座を実施した。bの講座内容を踏まえつつ、参考・引用文献の書き方、「CiNii Articles」「グーグルスカラー」の使い方等、主に論文執筆に向けて必要なスキルを中心に講習会を実施した。

6月20日(火) 1時限	生活福祉コース「介護総合演習Ⅲ」	11名
--------------	------------------	-----

- ③ 授業・教員との連携 継続(平成19年度～)
- a 図書館システム Lib Max の“ブックリスト機能”を活用した授業との連携 継続(平成21年度～)  
 図書館システムの“ブックリスト機能”を活用した所蔵資料のブックリストを作成し、併せてその関連資料を館内に展示するなど効果的な学習支援に努めた。
- b きらっと図書館講座の開催 継続(平成17年度～)  
 4年ぶりに来場者の制限なしでの大学祭が開催され、図書館ではイベントを再開した。  
 ・「えほんのひろば」卒業生による絵本の読み聞かせイベント  
 10月28日(土) 10:00～15:00 約10組の家族連れや卒業生など延べ約30名の参加
- c 授業制作物の館内展示 継続(平成22年度～)  
 地域こども学科教員の指導の下に制作した「自己紹介カード」「布製手づくりカバン」及び食物栄養コースによる休職管理実習のレシピや卓上カードなどを記録したファイルなどを館内展示した。
- d 「図書館を活用した授業実践例」データの蓄積・公開 継続(平成25年度～)  
 「図書館を活用した授業実践例」を20件集積した。
- e 「授業科目レポート課題履歴」及び「奈良佐保短期大学教材データベース」データの蓄積・公開  
 継続(平成26年度～)
- f 令和4年度「生活未来科生活福祉コース事例研究集」に掲載された「論題及び引用・参考文献リスト」データの公開 継続(平成26年度～)
- (イ) 学修成果の獲得のための学生支援
- ① 他部署・学科と連携した就職支援、学生支援の検討
- a きらっと図書館講座の開催 継続(平成17年度～) [再掲5-(1)-(ア)]
- b 「としょかん de カフェ: Xmasバージョン」の開催 継続(平成28年度～)  
 感染症拡大を避けるため、開催を見合わせた。
- (ウ) 地域公開 継続(平成25年度～)
- ① 令和5年度の一般利用者の利用は、13日間で26名であった。入館に際しては、身分証明書の提示を求め、閲覧のみの利用とした。
- ② “奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO”のサービス提供 継続(平成20年度～)  
 “奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO”に対し、毎月絵本を中心とした資料(月30冊)の団体貸出を行った。
- (エ) その他(課題)  
 卒業対象者・未返却者に対する対応策について 継続(平成26年度～)

未返却者に対して12月から授業内で教員から督促状の手渡しや、図書館員による督促状の手渡し及びメールや自宅へ電話督促を行うことで、2月時点では、卒業対象者及び新2回生ともに0名となった。

(オ) 歴史的文書の収集・保存研究(課題)

大学保存文書等の継続調査については、令和5年度は棚卸し作業等を中心に進めたので、大学保存文書等の継続調査は見送った。

(2) 自己点検評価室の運営

(ア) 自己点検評価室の取り組み

自己点検評価室では定期的に自己点検・評価活動を行った。自己点検評価室会議ではFD推進委員会とSD委員会の動きを把握し、本学の理念や教育目標等の達成状況を検証し、改善に向けた検討を行った。

① 自己点検評価報告書

自己点検評価報告を網羅的、簡便に実施するために書式を整え、実施する体制を作った。次年度からこの書式で自己点検評価報告を行えるようにした。

② 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検

教務委員会、情報メディアセンター運営委員会、自己点検評価室の協力のもと数理・データサイエンス・AI教育プログラム「リテラシーレベル」の申請し、認められた。次年度から自己点検評価室として数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検を行い、次年度報告の準備をした。

③ 研修会

今年度は大学体制と経営改善に関する研修会を2回実施した。

a 令和5年度第1回自己点検評価室研修会

自己点検評価室研修会「経営改革研修会1」

- ・日時 令和5年5月25日(木) 14:45~16:45
- ・場所 3号館講義室
- ・講師 本学生活未来科ビジネスキャリアコース 特任教授 上田利博氏
- ・参加教職員 32名

教職員が8グループに分かれて奈良佐保短期大学についてのSWOT分析とバリューカーブ上位1~7項目を提案し、意見を取りまとめた。また、各グループに自己点検評価室員が入りそれぞれのグループが活発な意見が交わせるようになった。

b 令和5年度第2回自己点検評価室研修会

自己点検評価室研修会「経営改革研修会2」

- ・日時 令和5年6月29日(木) 14:45~16:45
- ・場所 3号館会議室
- ・講師 本学生活未来科ビジネスキャリアコース 特任教授 上田利博氏
- ・参加教職員 32名

第1回同様に教職員が8グループに分かれて奈良佐保短期大学についてのSWOT分析とバリューカーブ上位1~7項目を提案し、意見を取りまとめた。また、各グループに自己点検評価室員が入りそれぞれのグループが活発な意見が交わせるようになった。

(イ) FD推進委員会の取り組み

① 学修成果に関する調査結果

令和4年度から、学務システムのsaho naviを利用して調査を実施しているが、前期はシステム不備でsaho naviが利用できなかったため、授業科目ごとではなく、学科ごとの調査とし、Google Formsを利用して実施した。後期は、例年通りsaho naviを利用し実施した。昨年度までは受講生が5名以下の授業科目での調査はしなかったが、自由記述部分だけでも授業改善に役立てたいとの意見を受け、1人でも受講者がいる限り、調査対象とした。また、前後期とも調査結果の分析は学内でおこない、後期分はIR推進委員会に依頼した。調査結果は、本学ウェブサイト公表するとともに、年度末に全体と個人の

結果及び GPA をあわせて印刷し、1 回生は 3 月の履修指導から 4 月のホームルームの間に担任または PT から手渡しし、2 回生は卒業式時に担任から手渡した。

実施期間

前期：9 月 15 日（金） 前期全体で実施 回答率：84.5%

後期：12 月 4 日（月）～12 月 31 日（日） 全科目で実施 延べ科目数 129（複数開講を含む）

回答率：56.7%

## ② 公開授業

例年通り、専任教員に対し自身が担当する授業について 1 回以上の公開依頼をし、前期 14 科目、後期 10 科目の公開を計画した。しかし、授業担当者の体調不良や参観希望日の偏りができ、参観された科目は前期 10 科目、後期 8 科目の公開となった。また、参観申し込みの受付範囲を在学生、保証人、卒業生、理事・監事、評議員及び非常勤教員を含む本学教職員、高等学校関係者、教育関係者（実習指導者）、受験生（受験予定者）とし、昨年までより受付範囲を高等学校関係者、教育関係者、受験生まで広げ、初めて実習関係者の参観を予定していたが、参観予定科目の授業担当者が公開日に体調不良になり、実習関係者への公開はできなかった。

検討会・報告会テーマについては「意欲的な受講態度の育成」と設定した。報告会は昨年に引き続きオンライン開催にすることで、前期 33 名、後期 29 名の教職員がリアルタイムで参加した。さらに欠席者が書面による意見の提出と録画視聴することで、多くの教職員が参加することができた。

### 【前期】

- ・公開授業日：7 月 3 日（月）～7 月 7 日（金）
- ・参観者数：専任教員 24 名 職員 11 名 評議員 1 名 計 36 名
- ・参観実施科目：専任教員担当 10 科目
- ・公開授業検討会：8 月 3 日（木）13：30～14：30 オンライン開催 同時視聴 18 名

### 【後期】

- ・公開授業日：11 月 27 日（月）～12 月 1 日（金）
- ・参観者数：専任教員 15 名 職員 6 名 評議員 1 名 計 23 名
- ・参観実施科目：専任教員担当 8 科目
- ・公開授業検討会：2 月 8 日（木）13：00～14：00 オンライン開催 同時視聴 29 名

## ③ FD 研修会

「科研費の申請に当たって」をテーマに法人本部長の黒川氏を講師とし実施した。科学研究費助成事業への申請にあたって、申請書の書き方などを具体的な例を挙げて解説を受けることにより、今後の研究活動の活発化の一助となった。オンラインやオンデマンド等を併用し研修会を実施することで参加率も上がっており、当日参加できなかった場合も後日研修会の録画視聴を促すことにより教員の参加率を 100% にすることができた。

### a 第 28 回 令和 5 年 9 月 1 日（金）13：50～15：30

- ・テーマ：「科研費の申請に当たって」
- ・講師：黒川 丈朗 氏（佐保会学園法人本部長／本学副学長）
- ・場所：本学 3 号館会議室・オンライン
- ・出席者：教員 24 名 職員 5 名 計 29

## ④ ティーチングポートフォリオ

学修成果に関する調査とともに実施していた「教員による学修成果に関する調査」に代わり令和 3 年度前期より実施を始めた。新任教員には、前期に記入依頼をし、それ以外教員には、後期学修成果の調査結果を公表すると同時に改訂のお願いをした。

(ウ) SD 委員会の取り組み

① SD 研修会

令和 5 年度 第 1 回 SD 研修会

日 時：9 月 11 日（月）15 時-16 時 30 分

テーマ：「奈良ホテルの歴史とおもてなし」

講 師：辻 利幸氏（名勝大乘院庭園文化館館長）

場 所：本学 3 号館会議室

出席者：46 名（生活未来科教員 10 名、地域こども学科教員 10 名、特任教授 6 名、法人職員 2 名、短大職員 16 名、特任職員等 2 名）

(3) 情報メディアセンターの運営

(ア) Chromebook 必携化に沿った運用実施

学生全員 Chromebook を必携し、教員の Chromebook を活用した授業も定着してきた。6 号館 3 階の研究室の前に、学生専用のプリンタを設置

(イ) WindowsPC 利用環境の検討

Windows でしか動作しないツール（食物栄養計算ツール等）があるため、634 教室の WindowsPC は再リース契約を行い、継続利用できる環境にした。

(ウ) 共有仮想サーバーの切換え

令和 5 年 3 月にオンプレミス（学内に物理的にサーバーを設置する）のではなく、クラウド上にサーバーを構築し、1 年運用した。従来、大学内でトラブル対策を行っていたが、今回の運用は、クラウドサーバー会社がサポート支援してくれるため、課題解決が早くトラブルも発生していない。

(エ) セキュリティウイルス対策

ランサムウェア（身代金要求型セキュリティウイルス）を中心とした各種ウイルスへの対応を可能にするウイルスツールを新規に導入した。ふるまい検知機能やデータをもとに戻す機能、感染した PC のネットワークを即時遮断する機能を有し、加えてクラウドサーバー会社に一次窓口で運用をしており、大学の IT 管理者が不在の時でも、トラブル時への即時対応が可能となっている。

(4) IR 推進室

(ア) IR データの収集

各部署の IR 推進室員により、学生の学修支援及び退学者・休学者減少、入学希望者数増加などの現状を踏まえて分析の目的を決定し、データ収集を行った。

- ・学修成果に関する調査（自己点検評価室）
- ・学籍移動データ（教育支援センター）
- ・学生 GPA（教育支援センター）
- ・学生 SPI 成績（学生・キャリア支援センター）
- ・短期大学生調査（学生・キャリア支援センター）
- ・卒業生調査（学生・キャリア支援センター）
- ・資格取得状況（教育支援センター）
- ・素養テスト結果（生活未来科）
- ・オープンキャンパス参加状況（入試・広報センター）
- ・入試情報（入試・広報センター）

(イ) データの分析

- ① 令和 5 年度卒業生データ、令和 2 年度から令和 5 年度卒業生データの経年変化についての分析、結果及び学習成果・短期大学生調査及び GPA の関係に関する分析等を令和 5 年度教授会第 9 回、第 13 回、第 22 回で報告。

(ウ) データ活用

① チラシ作成

分析したデータを広報活動に活かすためにチラシ作成に取り組んだ。完成したチラシは第 13 回教授会で報告した。

② 学生別の学修成果と GPA の集約

FD 推進委員会から学修成果に関する調査データの集約の依頼を受け、学修成果に関する調査の学生ごとの平均値を算出し、学生の学修成果獲得に活かせるようにした。

(エ) 学外研修への参加

① 令和 5 年 8 月 1 日(火) 13:00～16:30

日本 IR 協会森会長の特別夏季集中講座 全国の大学の意思決定を支援する IR の理論と実践  
～IR 担当者に必要な専門的知識・技能を習得～

② 令和 5 年 8 月 26 日(土) 13:00～16:00

令和 5 年度 IR フォーラム 変革する大学！ 学修成果の可視化と教学マネジメントの実践  
～IR データを活用し、学科教育の改善や教職員の学生支援スキル向上に取り組んだ事例～

③ 令和 5 年 12 月 13 日(木) 11:00～12:00

「卒業後調査オンラインセミナー <https://youtu.be/K1K60PFovKo>」

④ 令和 6 年 1 月 11 日(木) 15:00～16:30

第 2 回短期大学生調査及び短期大学卒業生調査データ活用セミナー

(5) 防災対策・環境

(ア) 地域と共にある大学としての具体的な取り組みを模索する。(継続)

① 地域防災避難訓練

「安全で安心なまちづくり」を推進するため、地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施した。本学 5 回目の取り組みで、本学の専門性を活かした避難所体験を計画した。

回数・年度		第 2 回 令和元年度	令和 2 年度	第 3 回 令和 3 年度	第 4 回 令和 4 年度	第 5 回 令和 5 年度
実施日		9 月 28 日(土)	新型 コロ ナ 感 染 症 感 染 拡 大 で	10 月 2 日(土)	10 月 1 日(土)	9 月 30 日(土)
参 加 者 数	参加者合計	380 名		295 名	249 名	160 名
	学内合計	149 名		164 名	150 名	101 名
	学生	113 名		123 名	108 名	68 名
	教職員	36 名		41 名	42 名	33 名
	学外合計	231 名		131 名	99 名	59 名
協力団体		奈良市・奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ダイドードリンコ	奈良市・奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ダイドードリンコ・ネットヨタ奈良	奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ダイドードリンコ・奈良トヨペット・ネットヨタ奈良・大塚製菓	奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ダイドードリンコ・トヨタユニテッド奈良	

<p>取組内容</p>	<p>①地域調査結果の報告 ②炊き出し訓練（400食：カレーライス）と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤防災食の調理と試食 ⑥AEDの操作体験 ⑦応急担架の作り方と搬送法の体験 ⑧新聞紙・折り紙のできる遊び、絵本の読み聞かせ、カプラー等 ⑨エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑩新聞紙でつくるスリッパや避難用リュック体験 ⑪防災グッズ展示と備蓄防災食配布（奈良市） ⑫パッキングと災害支援車（奈良県栄養士会） ⑬ロープワークと災害時に必要なノウハウと人命救助装備品（自衛隊） ⑭飲料水提供（ダイドードリンコ） ⑮ドクターヘリは、無事に本学グラウンドに着陸し、多くの方が機内を見学</p>	<p>中止</p>	<p>①地域調査結果の報告 ②炊き出し訓練（350食：カレーライス）と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤防災食の調理 ⑥AEDの操作体験 ⑦応急担架の作り方と搬送法の体験 ⑧車椅子操作体験 ⑨紙工作・紙芝居・楽器演奏・絵本の読み聞かせ ⑩エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑪新聞紙でつくるスリッパ等の製作体験 ⑫防災グッズ展示（大島商会） ⑬備蓄防災食配布（奈良市） ⑭パッキングの演示（奈良県栄養士会） ⑮ロープワークと災害時に必要なノウハウと給水車（自衛隊） ⑯飲料水提供（ダイドードリンコ） ⑰外部給電可能車両「ミライ」の展示（ネッツトヨタ奈良） ⑱ドクターヘリは、緊急要請のため飛来せず</p>	<p>①段ボールベッド・簡易トイレの組立演示 ②応急担架の作り方と搬送法の体験 ③車椅子の操作体験 ④エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑤新聞紙でスリッパ等製作体験 ⑥防災食調理の演示 ⑦スマートフォンの講習会 ⑧地域調査結果の報告 ⑨昔ながらの遊び（伝承遊び） ⑩炊き出し訓練（400食：カレーライス）と黙食訓練 ⑪備蓄防災食配付（奈良市） ⑫パッキング（奈良県栄養士会） ⑬ロープワーク・災害時に役立つノウハウ等・非常用糧食展示（自衛隊）⑭飲料水提供（ダイドードリンコ） ⑮外部給電可能車両展示（奈良トヨタ） ⑯外部給電可能車両「ミライ」の展示（ネッツトヨタ奈良） ⑰ドクターヘリ本学グラウンド離着陸 ⑱起震車による地震体験（奈良市消防局）</p>	<p>①避難者受付 ②備蓄防災食の配給訓練 ③避難所開設ゲーム HUG 実演 ④炊き出し訓練 ⑤応急手当訓練 ⑥震災パネルの展示 ⑦起震車による地震体験 ⑧消火訓練 ⑨エコノミークラス症候群予防運動体験</p>
-------------	---	-----------	--	---	---

避難所運営班名	①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、		①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、	①総務班 ②受付班 ③食料班 ④救護班 ⑤衛生班 ⑥連絡班 ⑦屋外班 ⑧体験班	①総務班 ②受付班 ③食料班 ④体験班
研修手法	ブラインド研修		ブラインド研修	ブラインド研修	ブラインド研修

(イ) 緊急時の教職員及び学生の安否確認の視点から見た訓練 (継続)

安否確認メールの返信率向上 (継続)

教職員・学生に対して、年2回、安否確認メールの返信訓練を実施している。昨年度と同様に遠隔授業で活用されたGoogleフォームを使って安否確認を行った。学生の意識付けも今後継続していくこととする。

(ウ) 本学ブランディングの一翼を担う学内農園の維持・管理をする。(継続)

- ① 引き続き、学外・学内に向け、本学の魅力の一つである農園の活用方法を検討する。
- ② 農園で栽培した野菜を、本学を周知させる為にイベント等での販売することや、入学者を確保する為にオープンキャンパス参加者へのお土産として渡すこと、学内レストランを利用する在学生の満足度の向上させる為に無償提供することで、本学ブランディングの一翼を担った。
- ③ 地域子ども学科の学生が主体となり、附属幼稚園の園児や子どもフェスタ等のイベント等に参加した親子の参加者に対して、サツマイモの植え付け体験や収穫体験の食育活動を実施し、教育活動の実習を行った。

(エ) 安否確認メールの訓練を実施する。(継続)

引き続き、安否確認メールの返信訓練を行い、教職員・学生の状況収集に努め、非常時に備えた。

(オ) 学内避難訓練の視点から見た訓練

通常のグラウンドへの避難訓練及び非常時の備えとして、教室でシェイクアウト訓練を実施した。グラウンドへの避難については事前に学年学科コースごとの場所を決め整列することに努めた。

## 6. 社会や地域への貢献に関する事業

### (1) 地域・国際センターの運営

#### (ア) 公開講座、開放授業による地域連携

公開講座については5講座を開設し、4講座実施した。うち2講座は奈良県教職員研修講座(※)と、1講座はなら子育て大学の講座と連動した形で開催(☆)。また、開放授業については44講座を開設した。4講座については履修証明プログラムとして位置づけた。今回は3講座3名の参加があった。ほかに、教育訓練給付制度(一般教育訓練)講座として、介護職員初任者研修課程も開設した。

今後も、地域の学びの拠点たるべく、開催の周知に努めながら、取り組みを継続したい。

(公開講座) 継続 (平成 15 年度～)

	タイトル	日 時	講師名	参加者数
1	世界遺産春日山原始林でフィールドワーク I (※)	7月29日(土) 9:30～12:00	前迫 ゆり	1名
2	一緒に作ろう～夏野菜親子クッキング (※)	8月19日(土) 10:00～13:00	島村 知歩	5名
3	さいてみよう!ならしてみよう!わくわくコンサート ート親子向けコンサート (☆)	11月26日(日) 11:00～12:00	村上 優	21名
4	世界遺産春日山原始林を歩く、愛でる、考える (秋～冬)	12月2日(土) 10:00～14:00	前迫 ゆり	気象状況により中止
5	さほたん元気講座「認知機能を理解し活性化させよう」	12月13日(水) 13:00～14:00	森永 夕美	3名

(開放講座) 継続 (平成 20 年度～)

分 類	前 期		分 類	後 期	
	聴講科目	履修者数		聴講科目	履修者数
食	食事療法論	1名	介護・福祉	生活援助方法論	1名
ビジネス	日本経済とビジネス	1名			

(イ) 高等学校との連携

特別連携校1校、県内連携校6校を中心に、出張講義や体験授業を通じて、本学が所有する教育や研究成果の還元に努めた。

(ウ) 国際交流

大連大学から1名留学生を受け入れた。閩南師範大学を含め、平成22年度から中国との交換交流を継続しているが、本学から中国への留学を希望する学生は皆無である点や、留学生の生活支援に苦慮する場面も多くなってきた点を鑑み、今後の交流のあり方を検討する。

(エ) イベントを通じた地域連携

入試・広報センターや防災・環境委員会と連携し、花いっぱい運動や地域防災訓練に取り組んだ。マリーゴールドの配付は周辺住民には好評であり、防災訓練については学生の防災意識の高まりにも寄与していると思われるため、取り組みを継続する。

(オ) 専門職人材バンク (夢の丘 SAHO 人材バンク) の取り組み

卒業生等に向けた広報や登録の周知が難しく、人材バンクとしては機能的に運用できていない。また、令和5年度から本学学生に向けたステューデント・アシスタント (SA) 制度を試験的に導入しているが、本年度の活用はなかった。

## 2.附属生駒幼稚園

新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり園生活全体にコロナ前の行事や活動を取り戻し、内容を考えながら進めてきた。マスク生活もなくなり先生や子どもたちの表情にも明るさが取り戻せ幼稚園ならではの生活が送れるようになりうれしい気持ちでいっぱいだった。しかし、まだまだ様々な感染状況の中でもある為、心身の健康管理を十分に配慮し子どもの育ちや学びを大切に保育に取り組んできた。また、近隣の環境状況を考慮し保護者や幼児の安全に配慮しながら登降園方法を常に考えてきた。バス通園状況の見直しや幼児の出欠調べなど教職員で園生活全般を見直し確認と共通理解を重視してきた。「明日も幼稚園に行きたいな！」そんな子どもの声が聴こえる安心安全な園づくりを目指し取り組んできた。

### 保育に関する事業

#### 1) 子どもらしくのびのびと遊び、自分で考え力いっぱい表現し、主体的に活動する幼児の姿をめざして

- ・マスク生活が無くなり幼児の表情が見え声やつぶやきがより一層聞こえるようになり遊びや活動、生活が活発になり園生活が更に楽しいものとなったことを感じる。
  - ・今年度からばんだ組（満3歳児）保育が始まった。ひとりひとりの幼児に寄り添い、担任と保護者が一つとなって子育てを行い、“急がずにゆっくりゆっくり” 集団生活を楽しむ保育を大切にしてきた。
  - ・日々の保育を振り返り常に保育環境や保育内容の見直しを行い実践を重ねた。
  - ・週案の作成と保育記録の徹底・・・学年ごとの連携と見直しをもった指導計画は、保育内容の充実に繋がった。
  - ・園生活における状況記録(発達、病気、怪我、出来事、他)・・・速やかに事象を報告し、教職員で共通理解し対応していくことの徹底に努めた。常に各学級の情報交換を行ってきた。(朝の会、会議等で報告)何か事象が生じた時は速やかに教師間で情報の確認と改正を行ってきた。
  - ・特別な支援を要する子どもに応じた「個別の支援計画」を作成し学期ごとに評価し次に繋げるようにしてきた。また、保護者や専門機関と積極的な連携を図り指導に努めた。
  - ・年1回特別支援教育専門の講師を県より依頼し実際の保育の中での幼児を観察し指導を受け実践に繋がった。
  - ・各学年にフリー教員を配置し幼児支援をしていくことでひとりひとりに寄り添った密な関わりができ、よりよい保育に繋がった。
  - ・フリー教員の日々の記録と情報交換ノートの作成・・・各学年・学級の様子や個々の幼児の姿がわかり、教職員で共通理解することができた。
  - ・基本的生活習慣の実態把握と充実・・・個々の成長を理解し具体的な言葉かけや寄り添いを工夫し指導に努めた。
- “げんきなならっ子”運動では園独自の取り組みカードを作成する等の工夫をして取り組み、学年に応じた指導を行った。家庭と共に取り組み保護者の幼児を励まし認める言葉が聞かれ幼児にとっても自尊感情が高まるようになり自らお手伝いをやろうとする姿や「おはようございます」の元気な声が聞かれるようになってきた。
- ・給食指導の在り方の再確認・・・食への興味がわき、楽しく食事ができるように指導の工夫を行ってきた。(紙芝居や絵本教材を通して)
  - ・家庭との連絡状況・・・“子どもを真ん中に”を大切に考えコミュナビ、電話、送迎時などを利用し保護者との連携に努めてきた。様々な問題ごとは速やかに情報を受け止め園長が対応するなどより良い解決に繋がった。

#### 2) より良い環境づくり

- ・体を十分動かし安心、安全に遊べる環境整備・・・固定・移動遊具の点検と子ども達が十分に楽しんで遊べる環境の見直しを定期的に行い体育遊具の倉庫の使い方や遊びにスムーズに活用できる環境を整えた。
- ・身近な環境の中で小動物に触れあい、共に生活し飼育体験などを通して命の大切さ生き物へのいたわりの気持ちを育て情操豊かな幼児の育成に努めてきた。(かめ ハムスター モルモット めだか ザリガニ かたつむり等)うさぎ1羽(季節に応じた飼育を考える)
- ・季節感や、日本の伝統行事を大切に伝える工夫を行う、5月の節句(五月人形飾り、こどもの日の集い)、

9月月見飾り、12月クリスマス（クリスマス会）、1月正月（鏡餅等）2月節分（豆まき）3月の（雛飾りひなまつりの集い）等・・・全園児が集まり保育内容や環境の工夫に努めた。（すみれコーラス・外部依頼の方を招く）ことで心に残る楽しい伝統行事に触れる機会となった。

- ・保育室内外の環境の見直し・・・夏の水遊びの環境として、ぱんだ組（満3歳児）年少組の発達を考え新園舎屋上の芝生を利用して保育の工夫を行った。年少児に相応しい空間であったため個々に応じた遊びを楽しむことができた。
- ・クリーンタイム（毎月1回）・・・子ども達と共に園舎内や園庭、畑の除草、清掃を行い「みんなの幼稚園をきれいにしよう！」の意識を高めるよう計画を定着させてきた。活動をしながら自然に触れ年中年長児では、自分たちから動き出す姿が見られ大切にしてきた。

### 3) 幼児にとって豊かな体験のための行事や活動を教職員で確認しながら行った。

- ・誕生会・・・ひとりひとりの誕生を大切に感じられる会として大切にしている。全園児や保護者（誕生児）が参加し学年での歌の披露を取り上げ幼児の成長を感じお祝いし楽しむことができた。各部屋では、誕生児の保護者と一緒におやつを食べたり楽しい活動をしたりして過ごす。
- ・遠足・・・下見を十分にいき各学年の発達に応じて実施した。
  - 春・・・年少園隣の公園（相模公園）・年中（大淵池公園）・年長（大阪 深北緑地公園）
  - 秋・・・年少（生駒山上遊園地）、年中（京都動物園）、年長（東大寺大仏、二月堂方面）
- ・クリスマス会・・・鹿ノ台中学校教頭先生がサンタさんになってくださり全園児で夢のある楽しいクリスマス会となった。
- ・運動会・・・コロナ前の実施に戻し鹿ノ台中学校で行った。多くの保護者や未就園児、卒園児の参加となり、みんなで楽しむ運動会となった。
- ・作品展・・・各学年テーマを考え作品や掲示方法に工夫をしたことで幼児の取り組みの様子や成長が見られ保護者と共に楽しむことができた。
- ・お楽しみ保育(年長児 奈良パークホテル・海遊館) 7月・・・内容を子どもたちと話し合い楽しく思い出となるよう取り組んだ。海遊館へ行ったりキャンプファイヤーをしたりして工夫をし行った。子ども達にとって楽しい一日となり保護者からも満足した声をたくさんいただいた。
- ・お別れ遠足（はしゃキッズ）・・・広い施設で思いきり身体を動かし楽しむことができた。お弁当は近くの幼稚園でとり、園児同志の交流もでき楽しかった！また行きたいな！と子どもからの声が聞かれ楽しい幼稚園生活の思い出となった。
- ・生活発表会・・・他学年の子どもの姿も保護者に参観していただき子どもたちの大きな成長に共感していただく機会となり幼稚園教育理解に繋がった。
- ・避難訓練・・・学期に1回行う。避難場所や避難の仕方、「おはしも」を知らせる。避難場所の確認
- ・ひまわり会・・・今年度卒園した新一年生を迎える。園庭や保育室で歌を歌ったり遊んだり久しぶりの幼稚園や先生、友だちにワクワクがいっぱいで楽しく過ごすことができた。
- ・なかよしマラソン・・・学年の実態に応じて楽しく参加できるよう計画を立て約1か月行った。地域の公園へも出向き秋の自然をいっぱいを感じ行うことができた。

### 4) 特別活動（外部講師起用）の充実

- ・外部講師教室の見直しと充実に努めた。
  - 年長・・・茶道教室(年4回) 畳の部屋での座り方やお茶の作法を学び、自分でお茶をたておいしくいただいた。経験を重ねる中で茶道の部屋に入ると背筋が伸び気持ちの切り替えができるようになった。保護者参加も行った。
    - ・体育指導(学期に1回)・佐保短大体育指導（年4～5回）
    - サッカー(年間8回)・書き方教室（保育後年長希望者のみ）
  - 年中・・・体育指導(月1回) サッカー（月1回） バランスボール（学期に1回）
  - 年少・・・体育指導(月1回) バランスボール（月1回）
  - ・各学年共通・・・英語教室(週3回) 子ども達が自由感のある中で、自然に英語（英語を話す人）と接

する環境、また、幼児期に楽しみながら、自分と異なる言葉話す人に興味を示し、自ら楽しみやってみようとする姿を大切に行っている。講師先生と園が話し合い「英語を教える」ではなく、子どもの実態に沿って無理なく行ってきた。「グッドモーニングメグ先生！」と自分から親しみをもち挨拶をしたり一緒に遊んだりして楽しく過ごす姿が見られた。今後、発達段階を考え内容を更に工夫しながら無理なく進めていきたいと考える。

## 運営に関する事業

### 1) 安全対策について

- ・送迎時の安全管理の徹底・・・無線機を使用することで、スムーズに連絡が取れ送迎の様子が把握できた。
- ・災害時のバス位置確認や乗降時の様子確認のために、連絡方法として無線機で連絡をスムーズに行う。
- ・登降園時に保護者駐車場に駐車場警備員が立ち安全面に配慮している。
- ・バス送迎の安全点検・・・バスに安全装置を設置し日々の安全点検（チェックシート）を行い職員間の連携に努める。
- ・遊具点検の強化・・・安全点検表を作成し学期に1回、職員全員で点検を行う。
- ・危険箇所を防犯カメラを設置し常に安全確認に努める。

### 2) 園内研修の実施

#### ・教員の研修時間の確保

毎朝の打ち合わせと保育の確認や子どもの姿を共有し、日々の細かい情報交換を大切に進めてきた。

- ・保育内容の充実と教員の資質向上をめざし各クラスで公開保育研修会を計画的に行い教員間で感想や意見を出し合い日々の保育に繋げた。

#### ・週案の作成と指導計画の見直し

今日の幼児の生活から明日の保育を考え経験させたいこと、配慮すべきことから活動のねらいをもちそのための環境を整え、日々の記録をしていくことで自分の保育が見えてくる。

#### ・教員研修の充実・保育内容の精選

保育後、各家庭と連携をとり進めていくことの大変さからコミュなびを利用し素早く連絡が取れるように工夫してきた。保護者との連絡を計画的にすることで翌日の保育計画や準備等に時間を費やすことができるようになった。職員がそろって会議・研修する時間の確保が難しかったが、朝の会や月1回の研修日を設けることで仕事の精選と保育の充実に繋がり子ども・先生・保護者にとって有意義なこととなり成果を上げるものとなった。

### 3) 各研修会参加

- ・コロナ禍前の状態に戻り積極的な参加ができ、教員の資質向上に繋がったと思う。

## その他の事業

### 1) 預かり保育の実施と充実

家庭的な雰囲気や大切にゆったりとした空間の中で、預かり担当教諭が話し合い、異年齢の子ども達とふれあい楽しめるように環境を工夫し行った。保護者の就労や家庭の事情等の理由で預かり保護者支援に繋がっている。(保護者の思いを聞きながら柔軟な対応ができるように工夫し取り組んできた)

### 2) <さくらんぼ>来年度入園予定児、<ひよこ>満3歳児入園予定児（未就園児）登園日の充実

保護者と一緒に登園し、先生や在園児とふれあい遊びをしたり絵本やお話にふれたり園庭で十分体をうごかしたりして園生活を楽しむ。(就園率につながるよう工夫して取り組んできた)

### 3) 家庭（保護者）との連携

- ・担任と連絡を密にする・・・コミュなび、電話、手紙、家庭訪問等。(日々の保育によりよく繋げていく)
- ・園だより担任からの「クラスだより」園長の「えがおのたね」を設け、子ども達の成長や子育てに今、大切にしたいこと等を保護者と共有する機会とした。
- ・学期ごとの個人懇談会を行い保護者と子育てについて話し合い共有し日々の保育に繋げた。
- ・保護者親睦会（6月）・・・各学年ごとに保護者が集まり育友会役員の司会進行で行われる。子育ての悩みや家庭での様子を出し合い保護者同志の親睦を図ることができた。

- ・給食試食会・・・給食業者の協力で食育についての講話を聞き試食していただく。(よりよい食育給食指導となるよう繋げていく)
- 4) 地域との連携・交流
- ・地域の行事・・・地域の納涼祭に年長児鳴子踊りの披露、いきいきホールオータムフェスタ幼児の作品展示、年2回の壁面掲示の参加
  - ・年3回推進委員会参加・・・保育園・小学校・中学校協力
  - ・鹿ノ台小学校との交流・・・授業参観や幼児の連絡会を行った。1月には広い運動場で思い切り凧揚げを行った。
- 特別支援教育関係では、入学前に子どもの様子について校長先生と保護者が話ができたり入学する子どもについて教員同士が話し合ったりして交流することができた。
- ・資源回収の協力
  - ・農園見学・・・チューリップ鑑賞年長児が参加した。地域の方々のお世話になり優しさや温かさを感じ子ども達にとって良い体験となった。
- 5) 各市との連携協力体制強化
- ・生駒市、奈良市各市の子どもサポートセンターと交流し様々な事象を共有しながら保育と指導に繋げた。(要対協4名)
  - ・教育相談、各療育専門機関との連携・・・担任が教育相談や各療育への参観をし、専門機関の園訪問を受け入れ、よりよい保育と幼児の成長に繋げた。
  - ・生駒市私立公立幼稚園保育園認定こども園合同園長会会議及び研修会に参加
- 6) 奈良佐保短期大学、中央阪奈病院看護学校との交流
- ・教育実習・・・実習1回生、2回生 見学実習 阪奈病院学生実習(一年間を通して)
  - ・短大生キャリア教育の授業への参加・・・先輩教員としての講話をする。
  - ・地域こども学科フィールド授業参加・体育指導は、短大体育館で実施。保護者参観実施(年1回最終日)
  - ・短大の畑でさつま芋の苗植えと収穫の体験(学生と一緒に)
- 7) 施設・設備等の修理・設置・充実
- ・ホールの暖房修理 室外機の修理
  - ・ドライブスルー再開の工事(登降園門付近、バス車庫付近の改修工事)
- 8) 各補助金・助成金の積極的申請
- ・奈良県幼児教育の質の向上の為の緊急環境整備事業「新型コロナウイルス感染症対策」補助金
  - ・ICT化支援事業補助金
  - ・奈良県私立幼稚園の教育の質の向上のための研修支援事業補助金
  - ・一時預かり事業保育補助金(生駒市・奈良市・精華町)
  - ・生駒市の加算適用申請書に基づき各市町村(生駒市、奈良市、木津川市、精華町)から毎月施設型給付費をもらう。
- 9) 募集について
- ・入園説明会や園見学の進め方と内容の工夫に加え、ホームページの見直しと充実に着手。

#### その他

- 1) 特別支援を要する園児については、積極的に各専門機関との連携をとり、保育に活かすことができた。
- 2) 衛生管理の見直し・・・様々な感染防止のため、ひとりひとりの健康観察と手洗い、うがい、消毒の徹底と換気
- 3) 各進学小学校との連携・・・新1年生授業参観・幼保小連絡会・入学予定者懇談会に参加(幼小連絡会や電話等で連絡をとったり小学校の先生が保育参観されたりするなど各小学校に応じる)
- 4) 消防関係 ・消防設備立入検査実施
- 5) 4月当初よりバス業務は委託を継続、バス常務や幼児の乗降状態に関しての日々のチェックの徹底と安全を確保

### 3. 認定こども園附属河内長野幼稚園

新型コロナウイルス感染症も連休明けの5月8日から5類へ変更となり、形として制限がなくなったとはいえ、感染の情報を把握しながら、職員みんなで相談し工夫をし、本来の子どもたちの育ちに少しでも近いものをつくりたいこと、何が一番大切かを見極めながら、予定どおり園活動を進めることができた。

#### 保育に関する事業

- (1) 「あそび」はこころとからだを育てる。子どもは教えられて育つのではなく自ら学び育つものであるという考えを基に、目先の知識の詰め込みや教え込みではなく子どもたちの自然でたくましい育ちを助けるよう、たっぷり とことん遊びこめる環境を整え援助をした。
- (2) 絵画製作（月1回）や体育教室（月2回）、英語遊び（月2回年中・長のみ）の活動も専門の講師の下、ますます充実し講演会や参観などを通して保護者の深い理解を得た。

#### 運営に関する事業

- (1) 安全対策について
  - ・引き続き万が一、不審者の外部からの侵入などの不測の事態に備えて教職員の訓練を行い、行事の際には保護者の協力を得て園内のパトロールを実施していた。
  - ・遊具の点検は年に2回業者に依頼。園の教員では学期毎に点検を行った。
  - ・上り棒が老朽化し、点検で修理の指摘されていた、大阪府の教育支援補助金を使い（2分の1負担）新調することができた。
- (2) 教員のスキルアップ
  - (ア) 外部より専門の講師を招いて絵画製作の研修を行い、クラス毎に研究発表をし、意見の交換や評価をして保育の質の向上を図った。
  - (イ) 外部より専門の先生を招いて体育・運動あそび、ゲームの研修をした。
  - (ウ) 河内長野市私立幼稚園連絡協議会の研修を受講
  - (エ) 園内研修の実施 各職員が、身近なことを共有し合うことから始めた。
    - ・「人権擁護のためのセルフチェックリスト」
    - ・気になる子の共有
    - ・気になる子の支援の方法※反省として、行事の準備等に追われ、まとまった時間を確保することができなかった。
- (3) 4月22日（土）大阪大谷大学あべのハルカスキャンパスに於いて大阪私立幼稚園連盟南大阪支部の就職フェアに参加
- (4) 定員の改訂  
1号こどもの減少、2号こどもの増加を鑑み、また公定価格の最大値を試行し1号こども（25名）2号こども（20名）に改定した。

#### その他の事業

- (1) 預かり保育
  - ・月～金曜日の早朝預かり（7：30～8：00）の実施。
  - ・土曜日預かりの早朝預かり（8：00～9：00）の実施。
- (2) 2号こどもの保育の充実
  - ・1号こども降園後の2号こどもの心的援助と環境の整備。
- (3) 子育て支援活動推進事業の実施
  - ・昨年度に続き、満2歳～就園までの子どもとお母さんを対象に未就園「たんぼぼ」の実施を週1回行った。遊びの場としてだけでなく、子どもやお母さんの友達作り、子育ての悩みや相談などお母さ

んの話聴く場としても広く開放した。

- (4) ・月に1回、年齢に関係なく地域の未就園児を対象に約1時間、園庭を開放した。同じ時間に絵本コーナーを開放し、卒園児保護者のボランティアによる絵本の読み聞かせや貸し出しの「さほっこ文庫」を開設した。「さほっこ文庫」は天候に左右されることなく実施できるので、利用しやすいと好評を得ている。
  - ・2歳の一時的預かり保育の実施。(定員6名。1歳10ヶ月頃からも状況に応じて可能とした。)
- (5) 毎月行っている参観は一年を通じて開催することができた。
- (6) PTA(佐保の会)活動は、少しずつではあるが実施できた。
- (7) 年長児の鍵盤ハーモニカの学習を再開した。
- (8) 春(長野公園)の園外保育は実施。秋(和歌山城)雨天のため「海遊館」へ貸し切りバスで行った。
- (9) 年長児の宿泊保育は実施することができた。
- (10) さほっこなつまつりは卒園生に向けての呼びかけをし、飲食やワークショップを実施。
- (11) プール遊びは実施。
- (12) 夏休みの自由登園とし、「わんぱく」と名付けて無料で縦割りの活動は、お盆前まで行った。
- (13) 市内9園が所属する河内長野私立幼稚園連絡協議会開催の幼稚園まつり。ラプリーホールにて人形劇を観賞。
- (14) 10月 加賀田フェスティバルに職員が参加し遊びのコーナーをする予定だったが当日の雨で中止となった。
- (15) 10月 加賀田ふれあい交流会に参加
- (16) 10月14日(土)運動会は、来賓を迎え実施した。
- (17) 5月25日じゃがいもほり、10月26日さつまいもほり(くろまるファーム)、12月8日みかんやま(奥畑みかん園)で収穫体験
- (18) 11月18日(土)作品展を園内で時間をずらして各クラスごとに開催。
- (19) 12月実施予定であったが、天候の関係で2月14日移動動物園。
- (20) クリスマス会、お別れ会は実施
- (21) 2月10日、11日開催参加、市内の小中学校と幼稚園の絵画活動の発表の場として開催の「キッズアート展」
- (23) 2月17日生活発表会開催 保護者の観覧あり
- (24) 3月15日卒園式 在園児参加なし、来賓・保護者の参列あり

#### 幼稚園評価の実施

保護者アンケートを行ない、その結果を施設関係者評価として学園の評価委員の先生方をお願いした。  
(評価委員に依頼中)

#### ※令和6年度の園児数について

令和5年4月1日に園児数30名でスタートし、園児数の減少に職員一同が危惧することとなりホームページ・インスタグラムの公開・保護者会役員の協力・近くの事業所へ園庭開放等のチラシ配架・来園された方々への丁寧な対応等の効果か令和5年度途中～令和6年4月1日までに19名の入園があり、令和6年4月1日は、37名のスタートとなった。

#### 4. 附属倉敷幼稚園

##### 保育に関する事業

(ア) コロナ禍であっても稲の栽培を行い、「米の収穫後の藁でお飾りを作り、どんど焼きで燃やし、その灰をじやがいもの種いもに擦り付けて除菌後、翌3月にいもを植える」という一連の作業を通して命の繋がりを知らせている。他にも花・野菜の栽培、小動物（うさぎ・小鳥）の世話を通して、自然との関わりの中で命の尊さについて知らせると共に、毎月行われる誕生会でも「生んでくださって有難う」「育ててくださって有難う」の言葉を園児から保護者に伝えるように知らせていった。

また、「ひとを大切に、ものを大切に」、ひいては命を大切に、そして全てに感謝の気持ちを抱くように伝えていった。

(イ) 「心と心のキャッチボール」を合言葉に円滑な望ましい人間関係の育成に努めた。

(ウ) 体育遊び教室（月2回）、モンテッソーリ活動（週1回）、リトミック活動（月2回）、英語遊び活動（月1回）等、非常勤講師の指導の下での遊びも充実させた。

特に、モンテッソーリ活動を充実させることで、園児の自主性を確立させ、集中力を養うことに貢献した。

(エ) 年中児を対象に、「歯科から見た食育～お口の機能、育っていますか？～」をテーマに園歯科医により、月1回ずつ実際の食べ物を口にしながら五味五感、出汁、新米の甘さ、食事時の姿勢の大切さ他、体験活動の指導を受けた。1月の保護者対象の講演会では「マスク生活における歯の成長について」の研修を受けた。

##### 運営に関する事業

###### 教員のスキルアップ

(ア) 昨年は岡山県私立幼稚園連盟と倉敷市私立幼稚園協会主催の、講演・実践・グループ協議等を中心に対面での研修・研究も始まり、z o o m等のリモートでの学びもあり、保育後に教員が順番に参加することができ、レポートを提出し、多くの学びができた。

(イ) 全日私幼連から出されている教員の資質向上のための俯瞰図にのっとり、県私幼連・市私幼協・県及び市主催の各種研修会も対面で始まり出し、リモート研修と共に全員順に参加することで研鑽を積んだ。

(ウ) 8月末に1泊2日の日程で中国地区私立幼稚園教員研修会（令和5年度は鳥取大会）が4年振りに開催され、講演会・研究発表に参加し、中国5県の教員と共に研修を重ねた。

(エ) 岡山県私幼連主催による令和5年度全体教員研修、及び主任研修、中堅研修は夏休みの一定の期間内でキャストリーによる動画配信により研修を受けた

(オ) 6月の県私幼連の総会・研修会、11月の県私幼連開催の公開保育は、昨年同様各園で動画配信での研修を受けた。特に秋の公開保育は専門のカメラマンによる子ども達の遊びの録画を見ながらテーマに沿って各教員や子どもの動きを見て研修をした。その後、レポートを提出し、それぞれ実りある学びの機会を得た。

(カ) 特別支援を必要とする園児に対し療育施設の先生の訪問を受け園生活が、そして就学に向けての接続がスムーズになされるように努めた。各学年にかなりの支援を必要とする園児がいるため、教員全員で対応している。

(キ) 毎日の終礼を中心にその日の保育実践や子どもの様子について園内研修を進め、各教員のコミュニケーションを密にした。特に、コロナ禍における行事変更や活動の見直し等、教員全体で充分話し合いを行い、予

定変更については直ちに保護者に一斉メール送信をすることで便宜や連携を図った。

## その他の事業

### (1) 預かり保育の実施

コロナ禍でもできる限り、満3歳児も含め預かり保育（毎日、保育終了後～17:30まで）を継続して行い、長期休業（夏休み・冬休み・春休み）中の預かり保育（8:30～17:30）も行い、保護者のニーズに添った。

### (2) 子育て支援活動推進事業の実施

県より支援を受け、コロナ禍でも遊戯室の環境を整え、未就園児の幼児クラブを月1回継続して行い、「子育て支援活動推進事業」に取り組み多くの未就園児親子に喜ばれた。

### (3) ボランティア組織

P. T. A 役員以外に、今年度も保護者からボランティアを募り、各種園行事への支援をお願いした。1学期末にP. T. A 役員のアイデアで「夏祭り」が楽しく開催され、子ども達も大満足であった。

8月末のP. T. A 会員による、園内外の清掃、団地の駐車場・通学路の清掃は職員と共に全員で行った。運動会の運営はP. T. A 役員やボランティアの力を借りることでスムーズに運べることができた。

### (4) 倉敷市私幼協主催くらしきキンダーフェスティバル

5月に開催の予定だった倉敷市私幼協主催くらしきキンダーフェスティバルは、コロナ禍や熱中症を避けた、市内17園の5歳児800名の全園児と教職員が倉敷市民会館に集い、観劇・歌・手遊び他で形を変えて皆で楽しく半日を過ごした。

### (5) 年長児のお泊り保育

8月末に国立吉備少年自然の家にて、過去何十年と続いている年長児のお泊り保育を4年振りに行った。参加した年長児はとても貴重な体験をし、送迎時には保護者からも大いに喜ばれた。

### (6) 実習等の受け入れ

学生数の減少が影響しているのか不明だが、今年度はどの養成校からの依頼も無かった。

### (7) 音楽の会

7月に、世界的ピアニスト「松本和将氏」と奥様のヴァイオリンリサイタルに年中・年長児が招待を受けた。

11月に親子音楽会を開き、年長児の保護者を招待し、年中、年長児で弦楽五重奏の演奏を聴き、感性の育ちの一助とした。

### (8) 人形劇鑑賞

12月に地元の短大生（20名）が演じる迫力のある人形劇を全園児で鑑賞することができ、子ども達は楽しいひとときを送ることができた。

### (9) 老人ホーム訪問

例年、春・秋と年2回、特別養護老人ホームに年長児が訪問し、手遊び・歌等、共に遊ぶことで老人から「命の大切さ・尊さ」を知ると共に、自分は他人の役に立っているという自己有用感、自己肯定感を体験するところであったが、4年続けて今年度も中止となり、貴重な体験ができず、誠に残念であった。

代表で園長が1学期には年長児作成のペンダントと畑で育てた玉ねぎを、2学期末には年長児がさつまいも

のつるで作った大きなリースを届けて、施設長に手渡し、喜んでいただいた。

(10) その他

季節の行事の他、今年は4年振りに新幹線や消防署・時計屋見学に行き、園外見学に参加することで社会に触れ、その一員としての自覚が生まれるように促す体験をした。取りわけ、地元大原美術館への年4回伺う見学では「世界の宝物」に接し、感性を育てると共に、見学マナーを身に付けることができ、貴重な体験をした。年長児の月を観る会も9月に参加することができ、子ども達は貴重な体験をすることができた。

(11) 避難のけいこ

月1回の避難のけいこを通して、火事・地震・不審者から身を守る訓練を積み重ねており、幼児とは思えないくらい素早く避難できた。7月には、昨年に引き続き倉敷警察署OBの2名の方が不審者への対応の指導に来園してくださり、実際にサスマタを使用し、職員が実体験をし、その後年長児は不審者からの避難の注意事項を細かく聞いた。

(12) お茶会他

2月の年長児対象のお茶会では、佐保会岡山県支部会員を講師に招き開催した。子ども達は大真面目な顔で正座をし、終わった後「抹茶は美味しかった」「干菓子は砂糖の味がした」とロ々に楽しそうに話していた。他に卒業式の前の準備、秋のバザーへの献金等、ボランティアとして佐保会員には常にお世話になっている。

(13) PTA 会員有志によるコーラス部

PTA 会員有志によるコーラス部「さほ×さほ smile」(部員約40名)の美しい歌声を、PTA 総会、7月・3月の誕生会等で聴いた。マスク着用で、本園の遊戯室で週1回練習を重ねている。特に今年度は20周年記念行事として地元の大会場「ゆらびの舎」で素晴らしい発表会を開催した。

他に4年振りに開かれた1月の倉敷市私幼協PTA音楽交流会では他を圧倒する程の素晴らしい演奏を披露した。

(14) その他

一昨年9月にでき上がったホームページを大いに活用しながら広く外に向かって園のことを伝え、園児数拡大に繋げていきたいと全職員で考えている。

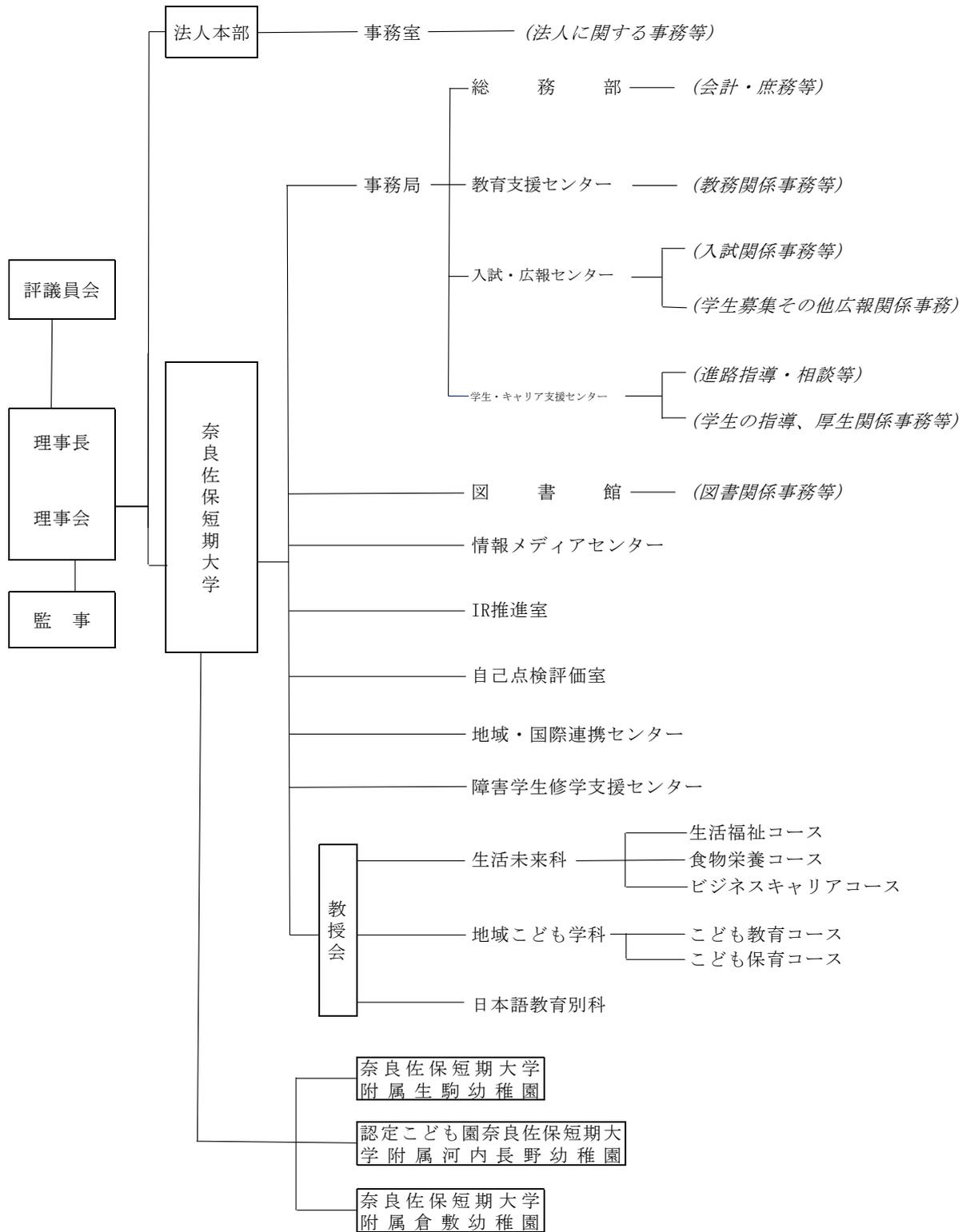
コロナが5類に移ったため、ほとんど以前のような活動に戻りつつある。

年度末のお別れ会でも、年長児に歌やプレゼントを渡し、その後、恒例のカレー会食を全員で行い、年長児との別れを惜しんだ。

一つでも楽しい思い出を作って年長児を卒業させたいという願いの下、PTA役員も飲食の無いミニバザーを開いてくださり、かなりの収益を上げることができた。

今年度も職員、保護者、皆で力と知恵を出し合って考えてきた1年であった。この経験を是非、次年度へと繋げていき、新型コロナウイルスが終息した新しい年での行事・活動を生み出しながら子ども達と保育を進めたいと願っている。

6. 運営・組織機構



(※ 斜体文字は主たる業務・分掌をしめす)